

## 第1回古平町議会定例会 第3号

平成26年3月10日（月曜日）

### ○議事日程

- 1 平成26年度町政執行方針並びに教育行政執行方針総括質問

### ○出席議員（10名）

議長10番	逢見輝統君	1番	鶴谷啓一君
2番	岩間修身君	3番	中村光広君
4番	本間鉄男君	5番	堀清君
6番	高野俊和君	7番	木村輔宏君
8番	真貝政昭君	9番	工藤澄男君

### ○欠席議員（0名）

### ○出席説明員

町長	本間順司君
副町長	田口博久君
教育長	成田昭彦君
総務課長	小玉正司君
会計管理者	白岩豊君
財政課長	三浦史洋君
保健福祉課長	佐藤昌紀君
産業課長	村上豊君
建設水道課長	本間好晴君
幼児センター長	宮田誠市君
教育次長	佐々木容子君
総務係長	高野龍治君
財政係長	人見完至君

### ○出席事務局職員

事務局長	藤田克禎君
議事係主任兼総務係主任	野村忠弘君

開議 午前 9時58分

- 議会事務局長（藤田克禎君） 本日の会議に当たりまして、出席状況をご報告申し上げます。  
ただいま議員10名全員の出席でございます。  
説明員は、町長以下11名の出席をいただいております。  
以上でございます。

◎開議の宣告

- 議長（逢見輝統君） ただいま事務局長報告のとおり10名全員の出席を見ております。  
よって、定足数に達しております。  
これより本日の会議を開きます。  
暫時休憩いたします。

休憩 午前 9時59分

再開 午前10時00分

- 議長（逢見輝統君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

◎日程第1 平成26年度町政執行方針並びに教育行政執行方針総括質問

- 議長（逢見輝統君） 日程第1、平成26年度町政執行方針並びに教育行政執行方針総括質問を議題といたします。

質問を許します。

鶴谷議員、どうぞ。

- 1番（鶴谷啓一君） 今回は、古平の加工協同組合の破綻という、そういう状況から始まりまして、本当に大変な年ではないかなと思っております。その中で、まず最初に古平川の工事でございますけれども、下流のほうは大体ことしで済んだのかなと思います。中州もきれいにいってございまして、大体済んだような状況だろうと思っておりますけれども、沢江町が前に災害に遭ったときに上流のほうから水が入ったのです。上流の堤防から。その上流の堤防は、ことしからでも始まる予定はあるのでしょうか。

- 町長（本間順司君） まだ詳しい話は聞いていませんけれども、あの部分についても将来にわたって補強していくというような話は以前から聞いております。

- 1番（鶴谷啓一君） 下流はそういうふうな状況で直ったのですけれども、上流はあそこがちょうど上からカーブになっていて、ぶつかって沢江のほうへ入ってくると、そういう重要な箇所でございますので、なるべく一年でも早く、ことしからでも手をかけてもらうように努力してもらいたいと思います。答弁は要りません。

次に、今回、最初に言いました古平水産加工の破綻という状況の中で、これから企業の再生を図っていくためにも、中小企業庁等の活用をチャレンジする方に応援をしたいということで町長は話

しておりますけれども、これは個人企業に対してでも中小企業庁の支援を受けられるのでしょうか。

○町長（本間順司君） 詳しい状況はまだ把握しておりませんが、そういう制度があれば積極的に活用していきたいというふうに思っております。今振興局のほうでもさまざまな調査をしながら、それに対処するべく頑張っているところでございます。

○1番（鶴谷啓一君） 本当に中小企業庁のほうでもいろんな面で、そこばかりではなくてでもとにかく再チャレンジする企業がもしあれば、古平町としても一層の努力をしてもらいたいと思います。

次に、その後に伝統あるたらこ製造業の明かりを消さないように努力してまいりたいということで町長は述べておりますけれども、マリン事業計画であります古平マルシェの開催を初め、物産と、それから観光面の食の安全面に関する水産加工の振興を図ってまいる所存でありますとありますけれども、今まで町長は、例えば物産展とか観光、食の安全面とか、そういうところに町長自身が行って売り込みをしたということはあるのでしょうか。

○町長（本間順司君） 古平で参加している物産展、いわゆる大通りで秋に開催されておりますフェスティバルがございますけれども、それには毎年行って激励をしたり、場合によっては女房も連れて行って、売り子のまねをしたりしてやったことがあります。そのほか生協あたりでもやるのがございますけれども、これは以前は行ったことがありますけれども、最近は行っておりません。

各企業も、それぞれ個人個人でさまざまなデパートで物産展をやっております。小樽のウイングベイでも後志の物産展をやっておりますけれども、そこにもカネトさん、あるいは吉野さん、カネキチさんですか、で物産展に出店しておりますけれども、そこにも応援に行ったことがございますので、なるべく多く顔を出すようにして、古平のPRをしているということでございます。

○1番（鶴谷啓一君） とにかくこれ、古平にはあと工場としては、現時点では4軒ぐらいですか、大島さんとか初め山田さん、それから吉野さんと水産加工と、そういう残されたものはこれから本当に大変だろうと思います。それで、町としてもできる限り、町長はトップセールスとして今後、今以上にこれを何とかしてもらわなければ古平は本当に沈没してしまうと、そういう状況でありますので、また心を切りかえて、とにかく一生懸命トップセールスとして何とか古平のたらこを宣伝してもらって、そして加工場が生き延びていけるように努力してもらいたいと思います。

それでは次に、商工振興でございますけれども、ここで水産加工の、みんな絡んできますけれども、そういう関係で、とにかく消費の購買力の流出ということを町長は述べられておりますけれども、それで引き続きプレミアム商品券の助成を行うということが書いてありますけれども、前から言っているように何とか3割にしてもらいたい。いろんな交付税やその他のことは前にも話しましたけれども、そこでこの際、購買力の流出を防ぐためにも3割に何とかしてもらいたい、そういう思いで今発言しているわけですが、そういう情勢にはならないでしょうか、町長の考えを聞きたいと思います。

○町長（本間順司君） 今購買力の低下というものが懸念されるところでございます。そんな中でこれから商店振興を図っていくということでは、かなり重要な時期になってきていると思います。このような加工協の破綻というようなことでございますので、財政出動も検討しながら、どうい

形で強力な支援をしていくかということのをこれから考えて、早ければ6月の議会にも補正で出したいなというふうに考えております。

○1番（鶴谷啓一君） 何とか3割にまたやって、考えてもらいたいと思います。それでなければ、消費的には購買力の流出では、本当に商店もなくなってしまうと、そういう状況であります。それと、きのう、おとといでしたか、8日の日に神恵内で、新聞を町長が見たかどうかわかりませんが、そういう観点から商店振興ということで、1万2,000円、全町民に商品券として配布するという状況もやっております。神恵内では8年と12年に年4回も発行しているのです。今回は消費税も上がるということで、また購買力が低下するだろうと。こういう町村もございまして、古平は商品券とはいわず、何とか3割に戻してもらえれば、この分ぐらいはできるのではないかなと思いますので、もう一回、商品券を出すかどうかわかりませんが、なるべく3割に戻してもらえるように努力してもらいたいと思います。

それでは次に、生活環境の中で、高齢者複合施設の道路のアクセスについて、道路改良の新しい道路に関する整備に関する調査費200万円をつけていただきまして、本当にありがとうございます。それで、これは前から言っているように、前は高齢者複合施設の道路のアクセスということではなくて、災害における道路の、そういうことで一般質問をしたことがございます。そこで、当然複合施設の道路のアクセスということは重要なのですけれども、それをつけることによって、前に言いました、災害のときの高校の一番そういう施設につながっていくのではないかと思いますので、そして町としては、ちょっと聞いたのですけれども、道路の箇所を2カ所、3カ所、なるべく金のかからないようにという、近くに何とか持ってこれないかというような状況の模索をしているような状況ですけれども、多少長くても、せっかく道路をつけるわけですから、50メートル、250メートルで終わらせよう。そうしたら300メートルになる。当然お金はかかりますけれども、せっかくつくる道路ですから、とにかくそういう何通りかの、最低勾配の緩くなるような、そういう設計をしてもらいたいと思うのですけれども、町長の考えをお聞きしたいと思います。

○町長（本間順司君） 今鶴谷議員のおっしゃるとおりでございまして、今までは勾配がきついというようなことで、いろんな坂道ございましたけれども、そういうようなことで勾配の改善をしながら道路を改良してきたというふうな経緯もございまして。その中で、これから調査する道路につきましても、十分勾配のことを考えながら、多少距離は長くなっても、そういうものも検討していきたいというふうに思っております。

○1番（鶴谷啓一君） そういうふうに町長おっしゃったとおりに、何とか勾配の少ないような状況で、ちょっと余談になるのですけれども、この間4日の日ですか、高齢者住宅の見学会がありました、そこに私も一緒に行ってきましたけれども、それで何人かに話を聞くと、冬はここはとても上って歩けないと、そういう高齢者の方が随分おられました。だから、今町長は考えているみたいですよということでお話ししておきましたので、何とかそういうような状況で、本間町長はうそのつかない町長であるということをお訴えしてもらって、そういうふうにやってもらいたいと思います。

それと、確かにあそこへ行く道路が例えば300メートルあったとすれば、古平小学校の道路を参考

にしますと、大体メーター当たり30万から40万、高ければかかるそうです。だから、300メーターだったら、最高高い見積もりをしたとして1億2,000万。それと、土地だとか設計だとかそういうことで単純に2億かかるだろうと。300メーターあって幅の広い道路、歩道をつけて、そういうふうをやった場合において、2億あれば、大体国から半分ぐらい来ますよね。補助金として半分ぐらいつくだろうと。それから、できれば起債でそういうふうによれば、交付税で70%ぐらい返ってくると。そういうふうになると、例えば1億、半分になったとして、町としては70%の3,000万ぐらい。概算ですよ。わかりませんが、概算で3,000万ぐらい出せば300メーター、40万かかったとしても、土地改良とかそういうのがありますので、何とかその辺をうまく活用して、なるべく早くつくってもらえるようお願いしたいのですけれども、町長はその辺はどうでしょうか。

**○町長（本間順司君）** なるべく早くとは思っておりますけれども、いずれにしても用地が絡んでくるものですから、その解決ができれば工事は9割方できたものだというような、昔から言われておりますけれども、そんなことで、早くルートを決めて、工事費の積算をしながら、土地の解決を図りながら進めていきたいというふうに考えております。新設改良費、なかなかここ数年そういう道路の事業をやっていませんけれども、大体今議員がおっしゃったような財源内容になるかなというふうに思っていますので、起債につきましては従前どおり過疎債の対象にもなりますので、なるべく早く進めてまいりたいというふうに考えております。

**○1番（鶴谷啓一君）** これは、ぜひ何とかお願いしたいと思います。

次に、保健福祉の中で、これ言っているのかどうなのか迷ったのですけれども、予算の関係もありますので、ここであれなのですけれども、町長は元気プラザの保健福祉課に行ったことはございますか。ありますか、冬に。何かあれ、すごいですね。ビニールをかけているのですね、事務所の保健福祉課のところに。ここで今言っているのかどうかと迷ったというのはそこなのですけれども、町長は言っていないのですけれども、予算が絡むことですから執行方針の中で聞いてみようかなと思うのですけれども、古平町としては何とかしてもらわないと、この間たまたま年寄りの人、俺より年寄りですけれども、年配の方を連れてあそこへ行ったのですけれども、全部閉まっているのです。あれっ、これどうしたのかなと思ったのです、最初。だけれども、あそこサッシかなんかつけて、中の女の人なんて毛布かけて全部やって、あれは大変ですよ。そして、行く町民も年いった人なのです、あそこは意外と。若い人も用事があるて行くかもしれませんけれども。30万かかるか50万かかるか100万かかるかわかりませんが、あそこに何とかガラス、サッシでも何でも入れてもらって、夏場はあけても暖かいだろうけれども、冬は何かしないと事務所としても、古平町の役場もひどいのですけれども、あそこはもっと、あれカーテン閉めてあったら全然わからないですよ。カーテンって……ビニール閉めてあったら。町長、何とかそれサッシでも入れてもらうような状況にはならないでしょうか。

**○町長（本間順司君）** 議員おっしゃるとおりでございまして、そもそもは事務室用としてつくったものではございませんので、また病院とのちょうどつながりのところということで、確かに寒いと思います。役場新庁舎、いつになるかわかりませんが、それまでの応急措置的な対策でも今後考えていきたいなというふうに思っています。

○1番（鶴谷啓一君） あれ何とかしてもらわないと、町民にも全く申しわけないと思います。

それから、地域医療確保対策ということで、28年3月以降には掖済会がいなくなるわけですが、それで当町に必要な医療体制を検討しているところでもありますということでもありますけれども、これのある程度のめどというものはどうなのでしょう。

○町長（本間順司君） 現時点ではまるっきり白紙ということでございまして、一応町で掖済会から買い受けるというようなことでもございまして、それからの体制につきましては、いろんな医療機関等々にも今後ご相談申し上げながら、町立病院に転換するにしましても、専門的な職員も必要になろうかなというふうに思いますので、今後そういう職員の派遣やら、それから逆に町職員を道なりに派遣した上で今後の体制の整備を図ってまいりたいというふうに思っております。

○1番（鶴谷啓一君） 何とかこれ、あと1年、2年ありますので、その間に何とか努力してもらいたいと思います。

それと、町長、最後になりますけれども、当面する諸問題ということで、防災無線が終わりまして、災害時のときのあれは安心・安全なまちづくりということで町長は述べておりますけれども、防災無線が終わりましたので、今後は、前から話しておりました一時的な高台の道路、これを何とか検討してみてもらえる状況ではないかなと思うのですが、町長、今後防災に対してのあれは何を考えているのか、その辺をお知らせ願いたいと思いますけれども。

○町長（本間順司君） 避難道路の整備も重要ではございますけれども、今時点では日本海側の津波の想定もまだ見直しがされておられません。きょうの新聞……きのうか、太平洋側はある程度整備されたというようなことで、避難所、避難施設、そういうものが整備されたということで載っていましたが、日本海側はまだ想定見直しがされていないというところで、かなり施設の整備がおかれているというようなことでもございます。

そんなことで、日本海側の自治体も、我々も含め、想定が出た段階でつぶさに検討しなければならないのではないかなというふうに思っております。現時点ではとりあえず避難する道路、これは冬は本当に雪が降って、なかなかそういうふうな機能を果たせないでいるのは確かでございます。これは、我が町ばかりではなくてあちこちそうだと思いますけれども、今後は冬の対策につきましても考えていかなければならないと、それは痛感しているところでございますので、今後検討させていただきたいなというふうに思っております。

○1番（鶴谷啓一君） 町長が今回4期目に立つときには、防災の道筋をつけたいということで大きく新聞にも報道された状況がありますけれども、何とか今後、とにかく防災について、古平町の安心・安全なまちづくりに重視してもらいたいと思います。

以上で町長に対する総括質問を終わりたいと思います。

次に、教育行政について二、三したいと思います。教育執行方針の中で、学校教育、生涯学習、生涯スポーツと、この3つについて教育長が述べられておりますけれども、その中には何々研修会、それから何々部会というものが随分出てきています、今回は。教育長の執行方針の中で、こういう部会とか研修会とかそういうものは、今現在やっている部会とか研修会というものは幾つほどあるのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 大きく言いますと、古平町の教育研究会というのがあります。それが母体となりまして、小中の先生方が連携した、その中にいろいろな部会を設けています。25年度からようやく小中連携が軌道に乗ってきて、その中での部会が今六つほど、小中連携部会だけではなくて事務部会ですとかありますけれども、そういった中で今6つくらいございます。

○1番（鶴谷啓一君） それで、部会とか研究会とかさまざまあるのですけれども、これが全部、例えば月に1回とか年に1回とかというさまざまなあれがあるので、これはどのぐらいの周期において会議とかそういうものがあるのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 各部会によって違いますけれども、今の小中連携部会ですと月に一遍ほどやっております。事務部会ですと年2回とか少ないわけですが、予算を組むときにあわせて中で会議を持つとか、そういった形で進めておりますので、その部会によって回数は違います。

○1番（鶴谷啓一君） 時間も来ているようですので、次に移りたいと思います。

古平では、いじめは今のところは報告されていないということで、不登校の生徒は何人ぐらいいるのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 現在は、不登校はございません。過去、平成22年度までは1人おりましたけれども、今は、23年度以降はございません。

○1番（鶴谷啓一君） 災害対策について話しておりましたけれども、定期的に避難訓練を実施しておりますということは、定期的ということは年に何回やっているのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 年4回実施しております。今小学校のほうでは、皆集まって、事前にお知らせしないで、校長と教頭と担当3名だけでやるという方法等をとってしまして、今5分を切るような形に、だんだんなれてきたという形は報告を受けております。

○1番（鶴谷啓一君） 何とかこれ、年に4回やっているということですが、できる限り回数をふやして、またいろんな方向から見詰め直してやってもらいたいと思います。答弁は要りません。

以上で終わります。

○議長（逢見輝統君） 次に、岩間議員、どうぞ。

○2番（岩間修身君） まず初めに、産業政策、これは今鶴谷議員もおっしゃいましたように、大変なことでございます。それで、申請が出さなければ、町長が例えばあちこちの支援を要請するといっても、幾つの加工場がこれからも営業しますということもまだわからないような状態でございますが、もしそういう企業が出ましたら、いろいろな方法でもって、一概に個人に助けるということではできませんでしょうが、国、道のあれを使いまして一生懸命助けてやっていただきたいと思っております。

それと、この間の職安の相談会に、次の日の新聞に出ていたのですけれども、後志振興局が年金支払いや生活支援融資などの相談に応じると。これ、生活資金の融資というのは、個人的に貸し出しするのかどうか、その人の返す能力とかそういうものがあると思うのですが、町を通して相談するというのでしょうか、これは内容的にわからないので、町長、わかっていたらお知らせ願いたいと思います。

○町長（本間順司君） 詳しくは聞いていませんけれども、各町村の社会福祉協議会なんかでやっております生活資金の貸し付けだとか、そういう面の支援かなというふうには思っていますけれども、それとはまた違った個人的なものがあるのかどうか、その辺につきましては把握してございません。

○2番（岩間修身君） 失業して、少ない国民年金もらって、そういう人に融資するのかなどうなのかというふうなふうに考えましたもので、これももしできるものであれば助けてやってもらいたいと思います。

それと、観光についてですが、家族旅行村の整備でございますが、200万ぐらいつけています。それで、家族旅行村も古くなりまして、大変お金のかかることだと思っておりますが、ちょっとした工夫、例えば古平温泉のしおかぜ、金曜日から木曜日にただけで月当たり25人ぐらいずつふえていると。金額にして大したことではございませんが、ちょっとした工夫でもってお客さんが来ると。お金のかかることだと思っておりますが、便所もきれいにして、それからいろいろな人に聞いたら、部屋にシャワーだけでもいいから欲しいと、そんなような話がいっぱいありまして、外を直すといったら相当な金がかかりますので、中だけでも快適なきれいなものにしたらどうかなと思っておりますが、町長、どうでしょうか。

○町長（本間順司君） 岩間議員のおっしゃることはもっともでございますけれども、今何せそれこそ施設そのものが古くなってしまっているものですから、その修復がまず第一ということで、なかなかそういう施設面のリニューアルなり改善は先送りになるのかなというふうに思います。各ケビンにシャワーというのは、施設的にはかなりお金がかかる施設だと思っておりますので、その辺はもうちょっと検討させていただければなというふうに思っております。ここに書いております、ロケーションだけでは決して売り物にはならないだろうというふうなことで、さまざまなことも企画しながら、なるべく集客に努めてまいりたいというふうに思っております。

○2番（岩間修身君） 高齢化して、修理も、それからそういう整備も大変だと思っておりますが、これは高齢化してお金がかかるからやめたというわけにはいきませんので、その辺考えて、徐々にでもいいようにしていただきたいと思います。答弁はいいです。

それから、地域医療の確保について、これは先ほど鶴谷議員もおっしゃられたとおりでございますが、28年3月になったら掖済会がなくなると。それで、前回町長の話では、特養含めた施設、先般喜茂別へ行って視察して来たのですが、物すごく立派なものが建っております。それで、これは町民にはなくてはならない施設、病院でございますので、ぜひ全力を尽くしてやってもらいたいと思います。今までは、病院側の言うとおりでお金がかかりっ放し。それで、町民のニーズに corres しているかと思えば、私なりに採点すれば応えていないと、そんなようなくあいでございますので、これはぜひ町民のニーズに応えられるような、そういうものにしていただきたいと思います。

○町長（本間順司君） いずれにしても、28年3月には町営ということになります。そんな中で、今度こそ町民のニーズに応えられるような、そういう診療所にしたいなというふうに考えております。そのためにも、先ほど申し上げましたとおり、ある程度専門家を養成しながら町立に切り



かえる、あるいはほかの病院に委託するにしましても、優しさのある、そういう病院を探して、委託できるものであれば、そのほうに進めたいなというふうに思っております。

○2番（岩間修身君） その辺は、どうぞよろしく願いいたします。

それと、今防災無線がつきまして、週3回ですか、午後6時から役場のお知らせ放送をしていますが、町民の方によれば男性ばかりだと。女性のきれいな声で、サービスに何か欠けているような聞こえ方がすると。それで、女性の職員を教育してはどうかという話があるのですが、どうでしょうか。

○町長（本間順司君） とにかくこういうマイクを使う仕事というのは、余り職員もなれていないかと思えます。私を初め、そういうのは余り得意ではございませんけれども、やろうばかりの声ではつまらないと思えますので、これからは女性の声もお聞かせしてまいりたいというふうに思っております。

○2番（岩間修身君） 最後になりますが、年3回の住民の避難訓練を開催すると。これ、学校は学校でやっている、それから町民は町民でやっている。だけれども、災害というのは何時に来るかわからないと。それで、子供も大人も一緒に訓練というものが必要でないかなと。例えば、朝早く、晩、それから日曜日、土曜日、そういうときにもし来たら迷うのでないかなと。それで、子供も大人も一緒にできるような訓練を1回してもらいたいと思えますが、いかがでしょうか。

○町長（本間順司君） 道でやる訓練につきましては、それぞれさまざまな目的を持ちながら訓練するわけでございまして、あと町では単独でやられる場合が多いということでございます。子供たちは、学校にいる間に昼間の時間帯というようなことではしておりますけれども、子供たちも、夜というのはなかなかどうなのかなというふうに思っております。許せる範囲であればある程度町の単独でそういうものも検討していかなければならないのかなというふうにも思っています。ただ、いかにしてやるかはなかなか難しい問題がございまして、その辺を見きわめながら今後検討してまいりたいというふうに思っております。

○2番（岩間修身君） これ、一緒に避難するということが大事でないかなと思えますので、ぜひ考えてください。

それと、今年度から避難場所とか津波の海拔幾らとあってあるのですが、700万つけてありますが、指定避難場所、集合場所と書いてあるのですが、よその町村へ行けば、これ古平小学校と書いてありますが、矢印をつけて、ここから例えば左に何キロと。日高町なんかへ行けば、避難所について、例えば古平小学校であればここから何キロと、そういうふうに書いてあります。古平町の人にはわかりますが、古平町以外の人には、しっかり見れば役場の上には書いてありますけれども、もう少し考えて、ここから何キロというふうな表示に直せないでしょうか。

○町長（本間順司君） 確かにほかの町村へ行けば、そういう標識がございまして。我々もどの標識がいいか、一応国なり道の標識に合わせようとしておりますけれども、町の単独でそういうふうな方向を示すような標識も必要かなというふうには思っておりますので、これから検討してまいります。

○2番（岩間修身君） この前の豪雨のときに旅から来た人が、どこに避難すればいいかわからなくてガソリンがなくなったというようなあれもございまして、ぜひ検討してみてください。

以上で終わります。

○議長（逢見輝続君） それでは次に、中村議員、どうぞ。

○3番（中村光広君） まず、町長は冒頭のほうで、古平町のこのたびの大雪、例年この地域は豪雪地域ということで毎年大雪になっているわけですが、除雪費もかさんできて補正予算も組まれているようですが、国道沿いだけでも流雪溝、余市町の国道沿いあるいは積丹町の道路沿いにも流雪溝というのがありますが、今後将来的に考えて、ただブルドーザーその他で除雪するよりも、流雪溝を国道沿いだけでも設置して除雪したほうが効率的にはいいのではないかと思います。流雪溝の将来的な設置というのは考えておられるでしょうか。

○町長（本間順司君） これはなかなか難しい問題で、国との関係等もございます。国道は、ご承知のとおりうちは高いということになってはいますけれども、そういう国との調整も必要であると。ただ、ある程度受益者が偏ってしまうというようなこともございますので、町の景観だとかそういうものから見ればそれは必要かと思えますけれども、ある程度国の除雪体制に任せていくのが筋かなというふうに思っております。今後は、国とも相談しながら、そういうことも考えられないかというふうなことも一応は相談してみたいというふうに思っております。

○3番（中村光広君） これだけ毎年毎年、雪というのは少なくならない、年々逆に、世界的な気象の変化もありますが、多くなっているように見受けられます。特に国道沿い、車が出るときに非常に見にくい状態ということもありますので、その点将来的に考えていただければなと思う次第であります。

あと、雪に関してですけれども、町内あちこち走っていて見受けられるのは、かなり屋根の上に雪が積もっておりまして、特に人の住んでおらない住宅等では、見るからにつぶれるな、危ないなというような箇所も見受けられているわけです。前々から空き家の関係の話は議題では上っておりますが、このたび倶知安町のほうで空き家管理条例というのが道内先立って制定されたようであります。それによると、個人では資金がないとかそういう方たちもおられますので、町のほうで見て危ないというところは強制撤去というような格好のことも条例の中に組み込まれていたようでありますが、そういった空き家関係の強制撤去みたいな条例、そういったものも古平町では考える必要がこれから出てくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○町長（本間順司君） 倶知安町は、先駆けて条例はつくりました。ただ、これにつきましても、なかなか難しい問題があるだろうというようなことでございます。それから、議員ご承知のとおり、後志管内においても各町村が集まりまして、さまざまな廃屋対策を練っているところでございまして、これといった妙案がないというのが現時点での状況でございまして、これから、国のほうもさまざま考えているようでございますので、それらの動向を見ながら管内の町村でも順次進めていくのではないかなというふうに思っております。我々もそれに追随してまいりたいというふうに思っております。

○3番（中村光広君） 非常に難しい問題ではあります。頭の隅に入れておいていただいて、今後考えていただきたいと思えます。

次に、先ほど来、古平町としては大打撃であります水産加工場の破綻の問題が上がっております。

一番早急に考えなければいけないのは、失業なされた方たちの対処ですね。その次に今度考えていかなければいけないのは、水産加工業をこれから古平町としてどうしていくのか。立て直していくのか、あるいは古平町の経済、これだけ疲弊しておりますので、水産加工業のほかに何か別の方向で経済を活性化する方向に持っていくのか、そういった古平町としての方向性が見えないと、進んでいく方向が見えないと取り組みもできないと思います。どのような方向で古平町としてこれから経済活性化に向かって取り組んでいかれるのかというのを、そういったビジョンがありましたらお知らせください。

**○町長（本間順司君）** これまで古平ブランドとして、たらこの生産を目玉としてやってまいりました。その中で今回、そういう破綻した中で残りそうなのというようなところが大体七、八割くらいのシェアを占めております。七、八割になるかな、七割にちょっと足りないくらいかな、そんなシェアだと思いますので、それらにつきましては、なおかつたらこのブランドを広めていきたいなというふうに思っております。

それから、議員おっしゃる新しい何かをとというのは、今のところはまだそういう考えも思いついていないし、古平に何かあるのだと。そして、かつては企業誘致も考えました。ただ、企業誘致するにしても、どういう企業をどういう場所にどんなふうに、町有地も少なかったというようなことで、なかなか企業誘致が進まなかったというのも一つの要因でございます。ある程度大きな工場でも来てくればそれにこしたことはないのですけれども、今度そういう工場のほうで、いわゆるこういう過疎地なものですから、運搬、配送等々もかなり難点があるというようなことで足踏みするというのが現在までの状況でございます。どういった方向に持っていけば地域的に振興できるのか、なかなか難しい問題でありまして、皆さんで知恵を出し合いながら、これから考えていきたいなというふうに思っております。

**○3番（中村光広君）** 古平町は、たらこがやはり一番経済において重要な部分でありましたので、非常に難しい問題ではありますが、私が考えるに後手後手に動いているような感が否めないところがありまして、たらこも平成12年、13年度が一番ピークで、今現在販売量にしても約3分の1、4分の1にまで落ちているわけですが、どうして一番売上げのよかった時期に古平ブランドというのを全国的にもうちょっとPRできなかったかというところが否めないところがあります。

町長、今言われたように、たらこを除いて何をこれから発展させていけばいいかというのが、古平町として何を売りにすればいいかというところがまだ見つからないと。自分が考えるに、これだけたらこというのが破綻のような状況になった今、観光のほうにもっと力を入れていかないと、古平町として私は、夕張ではありませんけれども、破綻の方向に進んでいっているのではないかなと。先手先手を打って、何か状況を打開するようなことを考えていかなければ、これだけ役場の職員さんの頭脳がありますので、将来古平の進んでいく方向を早く決断して、その方向で対処をどんどんしていけないといけないと思うわけです。

例えば観光の振興のところで、古平町で一番呼び物にしている温泉、家族旅行村、パークゴルフ場、今年の観光客の入込み数というのも、古平町としては減少になっているという状況です。もう少し観光のPRというものに取りかかっていたらかなければ、こういった施設もどんどん、どん

どん疲弊する一方だと私は思っているわけですが、何かPRの方法、そういったものは考えておられるでしょうか。

**○町長（本間順司君）** 議員もご承知のとおり、いわゆる素通り型の観光地ということで、人間というのは不思議なもので奥へ奥へと行きたがるもので、積丹のほうに人数が行ってしまうというようなことをございます。ただ、積丹町につきましても、かなり最近苦勞されているのは宿泊客が少なくなったというようなことをございまして、積丹ブルーは売り物であっても日帰りでしか来ないというようなことをございます。では、古平は何が売り物だったのかというと、いわゆるセタカムイだとかそういうところをございましたけれども、何せこういうトンネル事故でもって、それこそ景観が見えなくなってトンネルだけになってしまった。そういう売りの景観もなくなってしまったということで、なかなかロケーションのいいところが見つからないというようなことも一つの要因かなというふうに思います。

では、そのためには何をもって観光客を引きつけるかということ、宿泊施設があって、おいしいものを食べれる、そういうものがなければなかなか来れないのかなというふうに。でも、その施設をつくるにしても、かなりの財政負担がかかるというようなこと。それから、仮に町民の方々をお願いするとしても、そういう財力が残っていないというようなことをございます。これは、昔から、いわゆる200海里時代からそういう大打撃を受けてきた町でございますので、なかなか新たな商売に手をつけるというのは難しい、そういう町になってしまいました。町としても、いろいろPRはしたいのですけれども、加工協あたりにも助成金を出しながらPRしなさいということやってきましたけれども、なかなかうまくいかなかったというのが現実でございまして、これは議員皆さん方にも知恵をかしていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。

**○3番（中村光広君）** 観光の方面、あとPRの方面、これは非常にこれからの古平町にとって重要な部分だと思います。PR、熊本のくまモンではありませんが、ああいったゆるキャラですとか、そういった案も一つ、いろいろな案を出して、そういったPRをしていただきたいと考えております。

商工業の振興についてというところで、先ほど鶴谷議員さんのほうからプレミアム商品券を30%にしていきたいということがありましたが、プレミアム商品券、今販売の時期が大体9月ということで、皆さんそれをどういうふうにするかというのが去年、商工会のほうの統計で出ていましたが、ほとんど7割方は灯油に使っているのです。6割、7割方は灯油に使われております。プレミアム商品券が9月ということで、大体灯油の時期に入ってきますので灯油に使われる方が多いのですが、その時期を年、例えば今1回ですが、2回に分けて、春、夏に使われるプレミアム商品券、あと冬場に使われる商品券と年2回発行という手を自分で考えてみたのですが、年1回の発行だとそういったふうにする方の購買が偏ってしまうということがありますので、2回にするとかそういった方向はいかがなものでしょうか。

**○町長（本間順司君）** やり方につきましては、商工会さんのほうでいろいろと検討しながら我々のほうに持ってくるというような形をとられたほうがよろしいのではないのでしょうか。

○3番（中村光広君） 次に、教育長のほうにお伺いいたします。

9ページの生涯学習・スポーツの推進について、そのページでありますけれども、8行目ですが、「ネットワークや携帯電話等による」という、その部分。最近、若年者、子供たち、携帯電話、ほとんどの子供たちが持っているような状況になっております。あるいは、家庭においてはパソコンでインターネットやられる子供たち、ゲームやられる子供たちが多くなりまして、世間的にもそういった子供たちが詐欺ですとか、あるいは犯罪的な目的につかまってしまって問題になっている事態が起こっております。古平町において、インターネット、携帯電話等の使い方等、そういった指導というのはどのようになっていたでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 中学校での先日の調査では、75%くらいが携帯電話を保有しているという状況でございました。インターネット等から守るのに、余市警察署ですとかから講師を呼びまして、そういった講演会を開催しております。生徒だけでなく、親も含めた中で、フィルタリングの問題ですとかありますので、そういった講演会は毎年開催してございます。

○3番（中村光広君） これだけ情報が飛び交っている世の中ですから、そういった方面も注意していただきたいと思っております。

以上、終わります。

○議長（逢見輝続君） ここで20分まで休憩いたします。

休憩 午前11時06分

再開 午前11時20分

○議長（逢見輝続君） 休憩前に引き続き総括質問を続けます。

次に、本間議員、どうぞ。

○4番（本間鉄男君） 先ほどから水産加工業ということで、たらこだとか出ていますけれども、先日職安だとかそういうところが来て、失業保険だとか相談会とかいろいろやってございましたけれども、古平漁業協同組合の生産部で十数名ですか、募集だというようなお話も伺っております。ただ、生産部の募集なんかも、よく話を聞いてみますと、十数名の募集なのですけれども、30代、40代が募集だということと、それから企業側に対しての補助というのですか、そういう助成があるのだろうと思うのですけれども、1年限りだというようなお話も伺っておりますけれども、町のほうではどの程度まで把握しておりますでしょうか。

○町長（本間順司君） さまざまな方面からのご支援もございまして、緊急雇用対策事業という形で、後ほど追加議案で出てくると思いますが、単年度限りの事業だというようなことでございます。議員おっしゃるとおり、指導者育成といいますか、そういう形なものですから、ある程度年齢が若い方というふうになろうかと思えます。余り詳しい話は聞いていませんけれども、将来的には漁協さん単独でもやりたいような話はしてはいたしましたけれども、その辺はまだ不明な点でございますので、わかってから皆さんにご報告申し上げたいというふうに思っております。

○4番（本間鉄男君） 緊急対策事業で、1年間ですけれども、そういう十数名の方が採用できそ

うだというようなお話なのですけれども、本当は20名ぐらいも採用できるのかなと思ったら、たまたまことし、中国の子供たちというか、若い人方が漁業組合の生産部に6名来ると。ただ、今残っている人方が来年でないと帰らないという中で、その6名分が逆に今のこういう状況の中で余計募集できないのかなという思いもあるのですけれども、ただ平成21年でしたか、古平町で1,000万ほど国の予算をいただいて、加工業者に新商品開発とPRということで補助したのですけれども、そのときにテレビコマーシャルだとか、そういうコマーシャルはやったのですけれども、新商品開発が、あのときはシラスがとれなかったとか、エビはみんなやっているとかなというように話で、全然新商品開発というものもしなかったというようなことで、逆に言うと、その時期には後ろ向きだったのかなと、そういう気がいたします。

自分のかまどだけで精いっぱいだったのか、それとも意欲がなかったのか、その辺はよくわかりませんが、町も一生懸命そういう部分では手を差し伸べていたところもあると思うのです。だけれども、なかなかそういう部分が遅々として進まなかったという思いが私もしております。ただ、これからは、漁業のほうと関連すると思うのですけれども、今ようやく、私も何年前からナマコの育成というか、そういう話をしていましたら、ことし組合のほうもやる気が起きたのか、ナマコの育成ということを考えていますけれども、ナマコは5年から7年かかるというようなことなので、これを育てながら、これの2次加工、3次加工、これを町も支援していくべきではないかなと思うのですけれども、その辺どうでしょうか。

**○町長（本間順司君）** 議員おっしゃるとおり、加工業の経過につきましては議員と同感でございますけれども、今漁協でやろうとしているナマコでございますが、かなり年数もかかるわけでございます。加工といいましても、加工して、乾燥させて中国に輸出するのだというような、道南の上ノ国町ですか、上ノ国町で今それをやっています。そんなことで、加工といえば加工なのですけれども、単純な仕事といえば仕事だと思えますけれども、それらも将来、乾燥加工といいますか、そういうものもできればなというふうには思っています。どこまで事業が大きくできるかわかりませんが、その前に日中関係がうまくいかないかも大変気になるところではございますけれども、新しいそういう事業に力を入れていきたいなというふうに思っております。

**○4番（本間鉄男君）** 本当に時間のかかることだと思うのですけれども、今古平町でそういうものを育てていかなければ、今後さらに衰退していくのかなという思いもします。ただ、先日も小樽ですか、アワビの話も出ています。陸上養殖というのですか。だけれども、アワビなんか1年半ぐらい陸上でやると12センチぐらいになると聞いていますけれども、今北海道で7カ所ぐらいそういうところがあるので、今ナマコというのはそんなにやっていない。逆に言うと、ナマコのほうが価格的に高いのかなと思うので、ぜひその辺も考えていただきたいと思います。

それと、商工会の部分でお伺いしたいのですけれども、今商工会の会員数が、私役員でも何でもないのわからないのですけれども、加工屋さんが6軒とか7軒、そういうふうになくなってしまくと、規定によりますと指導員の道補助が出ないのでないかなという瀬戸際に立たされているような気がするのです。それで、今の商工会の会員が、加工組合の会員が商工会に入っていると思うので、その辺を含めて例えば労働保険の関係だとかそういうものも事務として減ってくるのかなと思

うのですけれども、道補助が出てこなくなると、おのずと職員の削減という問題も出てくるのですけれども、その辺の町の見通しというのですか、今把握している部分はどの程度あるでしょうか。

○町長（本間順司君） 議員おっしゃるとおり、商工会に加盟している加工業者がほとんどでございいます。24年度末の加盟、いわゆる商工会員が115名ということでございいますので、多分100名が指導員の受ける基準だったと思いますけれども、今のところそれより15オーバーしているものですから、それから見れば100を切らないのではないかなというふうには思っていますけれども、その点については今のところ、現時点では心配はしてございません。

○議長（逢見輝統君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時29分

再開 午前11時29分

○議長（逢見輝統君） 再開いたします。

○4番（本間鉄男君） 今、115名と。本来、細かい数字を余りこういう場で聞くものでないなと思うのですけれども、そういう中で今6軒、7軒減っていくと、百一桁台という形になってくるのです。それと、今回の場合、ほかの影響、そういうことによってもしかして加盟店がやめていくという、そういう状況もあり得るのかなと。そういう今厳しい状況でないかなと思うのです。その辺を踏まえて、町も一生懸命商工会に対して、ただ金銭面の補助というばかりでなく、どのように商工会を立て直していくというか、そういう問題も出てくるのではないかなと思うので、ぜひその辺を今後ともお互いに協力し合ってやっていただきたい、そのように思っております。

それと、防災の関係なのですけれども、先ほどもほかの議員から出ていました防災無線、男で色気がないというような話もありますけれども、確かにそういう部分もあるのですけれども、町民の声の中には、月、水、金の6時からやっている部分の内容がもうちょっといろんなバリエーションがあっているのではないかという声が多いのです。ということは、リサイクルのあれは何曜日ですよとか、浜町方面は何曜日ですよとか、新地方面は何曜日ですよとか、そういうようなお話だとかということが伝えられる。これ毎週やっているものなのです。

ただ、そういう中で私がよく聞くのは、例えば先生方でもそうなのでしょうけれども、新しく入ってくる先生方が、例えばリサイクルの教本というのですか、そういうものがないということが多いのです。だから、役場に行ったらもらえるのではないかというようなお話もするのですけれども、そういう中でもうちょっとそういう声かけだとか、せっかく防災無線の活用でしょうけれども、日ごろのそういう中で興味を引くというか、だからできれば、インターネットで見れば町長のスケジュールが出るように、町長はきょうは議会ですよとか、きょうは上京ですよとか、そういうものだけいろいろなものを入れて、防災無線がふだんなれて聞くような、ちょっと防災とは外れるかもしれないけれども、よく他町村でやっている有線ですか、そういうようなあれもまぜながらやっていったほうがいいのではないかなと思うのですけれども、町長、どうでしょうか。

○町長（本間順司君） この間供用開始したばかりでございいますので、週3回というのは今様子見

の段階でもございます。ある程度そういう住民の方からの声を聞きながら、ふやしていくものであればふやしていきたいというふうに思っております、ただなかなか個人差がございまして、肝心のところだけでいいみたいな感じ、そのほかのものは耳ざわりだからだめだみたいな、そういう感覚の人もございます。いろいろありますけれども、なるべく迷惑のかからない、そして親切なそういうお知らせを考えていきたいなというふうに思っておりますので、ご理解願いたいと思います。

**○4番（本間鉄男君）** それと、ことしパソコンがXPから変えるというような話で予算もつけていますけれども、私前にも言ったと思うのです。前のウィンドウズ98でしたか、それからXPに変えるときに、XPは穴だらけだよと、これはだめなのだよと言っているけども町は予算化しながらやっていって、これになってから何年ですか、結局やっぱり穴だらけだということで今新しいウィンドウズに変えると。だから、私実際に自分たちもパソコンを持っている中で結局XPを使わなかったのです。ずっと延ばしてきたのです。それで、昨年かな、一昨年かな、新しくウィンドウズが出たときに切りかえたのですけれども、結果的にもう少しそういう機器のソフトの勉強だとかしていれば、こういう無駄なお金というのは、何百万というものを投げてしまうような形なのです。そういうところをもう少し、パソコン、たしかそういう人方というのは職員の中にも何人もいると思うので、町長の判断でない中で進めてきたのではないかなと思うのですが、今後そういうものも含めて、経費をかけないような中で進めていくという方向を考えていただきたいと思うのですけれども、町長、どうでしょうか。

**○町長（本間順司君）** 私、パソコンのほうは余り詳しくないのでわかりませんが、ただ新聞等でもご承知のとおり、古平町ばかりではなくて、大抵の自治体がこれでかなり苦勞しているというようなことでございます。大きい札幌市でも苦慮しているというようなことございまして、専門家がそっちのほうがいいからそうだというふうにも一概にもならないのかもしれないし、その辺の事情は詳しくはわかっておりません。ただ、そういう時期に差しかかって、どうしても必要であるというようなことだけはご理解願いたいなというふうに思っております、機器の取り扱い等につきましてはこれからも勉強させていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

**○4番（本間鉄男君）** 先ほどからほかの議員にも出ていた高齢者住宅の道路の問題なのですけれども、私この間、歩いてははからなかったのですけれども、高齢者住宅に上がっていく旧高校の角、あそこから大体今城建設、あそのあたりまで車のメーターではかかっていくと三百幾つか400近くあるのです。そうすると、それを勾配でもしつくっていくとなると、四百何ぼから500近い、そういう距離になると思うのです。そうすると果たして、車の上りおりは多少は楽かなと思うのですけれども、一つは避難路として400メートルも500メートルも坂を上って避難していけるか、またふだん高齢者が上から下へおりてくるときに、実際にその坂を上りおりするのかなという疑問もあるのです。

だから、私の個人的な考えといえば個人的なのでしょうけれども、逆に言うと今の場所というのは、例えば火葬場へ行くバスであろうが上っていきますので、ただ交差の問題でどうなのかという話もありますけれども、逆に言うとロードヒーティング化したほうが、かえってあそこが避難場所



として下のほうから上がっていく人方も近いのではないかなと、そういうような思いもするのですが、町としてはどういうふうに思っておりますでしょうか。

○町長（本間順司君） 議員おっしゃるとおり、冬道は滑るということで危険ですので、中長期的な道路も考えながら、当面はそういうロードヒーティングも考えていかなければならないのではないかなということで、今これから検討も進めてまいりたいなというふうに思っております。

○4番（本間鉄男君） それと、清住のほうで、町長の執行方針にもありましたけれども、2棟8戸ですか、住宅ということで考えておりますけれども、そうすると2棟8戸ということは1棟4戸かなと。2階建てなのかなとか、それとも平家で一棟4軒ずつというか、そういうような形なのかなと思ひながらあれですが、結局今高齢者住宅に入る人、例えば町外に逃げていく人、この辺で一番やっぱり切実に考えているのは雪なのです。雪のために毎年、町外に何人も逃げていく。ただ、今回も高齢者住宅に申し込もうかなとか見学しようかなといった中では、今は頑張って雪投げはできているのだけれども、これから雪投げもできないのだというときになったらそういうところに入りたいなというような人方が結構声として聞くのですけれども、例えば清住、清川の住宅なんかでも、そういうものを新しく建てていく場合、雪対策というものも必要でないかなと思うのです。その辺を含めて町は、新しい住宅はどのように考えておりますでしょうか。

○町長（本間順司君） 新しい住宅は、今までの不便な点、そういうものも考え合わせながら、どういうふうにするかもこれからの調査設計の中で考えていくということでご理解願いたいと思います。

○4番（本間鉄男君） 次に、教育長にお伺いしたいと思います。

先ほどもインターネットという話で質問した議員がおりますけれども、今IT授業というか、そういう中でタブレットを使いながら授業をやっていくとか、そういう形で進んでいるのが現状だと思うのです、ほかの町村では。古平町では、そういう形で授業を進めていこうかなという、そういう計画とかそういうのはあるのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 今国のほうでもICT授業というのは奨励してございます。おかげさまで小学校につきましては、新築したときに1億以上の備品購入予算をいただきまして、その中で拡大鏡ですとか入れて、非常に役立った授業を展開してございます。ただ、今小学校ですと施設整備、完備されていますので、それが中学校へ行ったときに対応できないという問題がございますので、ことし26年度予算で拡大鏡1台入れて、これからICTに関する、そういった授業計画を立てながら授業改善を図っていきたいと思っております。

○4番（本間鉄男君） パソコンを最初に入れたときも、中学校から入れて小学校と、ああいうときも年次計画を立てながら徐々にふやしていったということで、授業をする場合、例えば物事を調べる、そういう場合でもITを使いながら授業に取り組んでいくということがすごく重要視されてきておりますので、予算のない中で大変なのかなと思うのですけれども、その辺を含めて今後何とかしていただきたいなと思います。

それと、教育長の生涯ボランティア事業やそういう中で、だんだんそういう資格を持った人だとか、私議会でかなり前に、そういう資格を持っている人を登録させて、それでもってそういう人の

活用をというようなことだったのですけれども、いかんせんなかなかスキーだとか一部水泳か、そういう程度ぐらいで、だから以前登録した人方のお話を聞いても、全然声もかからないのだというようなお話もありました。だから、生涯学習ボランティアバンクというようなことをもう一度見直しして、きちっとそういう人方を登録した場合には1年に1遍でも2遍でも活用を考えて、活躍できる場、そういうものをつくってあげることによって生きがいも出てくるのかなというような思いもありますし、また新しい技術だとか知恵を身につけれる興味も出てくるのかなと思うので、この辺もう一回見直しかけてするべきではないかなと思うのですけれども、どうでしょうか。

**○教育長（成田昭彦君）** ボランティアバンクに登録されている方は、30名以上いると思うのです。学校支援の中でも、そういったものをお願いしてやっているわけですが、今実際に動いているのは、スキー授業のときのスキー連盟ですか、あと今中学校で柔道が入ってきまして、その辺で高野議員さん等をお願いしているわけですが、いかんせん文化活動等のそういったものの活動というのは、確かに登録はされているけれども、活動がなされていない。今総合学習の中でもそういったものを求めているわけですが、なかなかそういった場面が出てこないということで、学校と、そして生涯学習のほうともう一回検討しながら、ここは本当に見直しを図っていかなければならないかなと思っていますので、そこは長い目で進めていきたいと思っていますので、ご理解願いたいと思います。

**○4番（本間鉄男君）** だから、たけなわ学級であろうが何であろうが、そういう年配の人方を含めていろんな講座というか、そういうものもあるのでしょうか、なかなか次の世代が育たないというか、指導者が出てこない。これ私、かなり前ですけれども、そういうものを各教室、移動しやすいようなそういう仕組みをつくっていかないと、そういう中で前に九州の何都市でしたか、そこでそういう講座をつくりながら次の世代を育てていっているというような形でやってきて、なかなか盛んな町もあるのです。そういうものを前に提案したこともありますが、なかなかそういう部分で育たないということは結果的に、一般的に言わせると、同じ人が同じメンバーでずっとそこにいると、新しく入っていく人がなかなか入っていきづらいということ、それから年功序列ではないですけれども、上におもしろいという言い方もおかしいのでしょうか、そういう中でなかなか打ち解けないというか、そういう部分があるので、その辺も踏まえて全部見直ししていかないと、いろんな学級初めそういうものが進化していかないのではないかなと。どうですか。

**○教育長（成田昭彦君）** 確におっしゃるとおりでして、今回25年度のたけなわの授業が全て終わりました、その後生徒からアンケートをとりました。今、年10回開催しているわけですが、回数とか授業内容についてどうですかというアンケートだったのですけれども、7割、8割方は今でいいというような回答なわけですが、確かに授業内容等にしても形骸化しているところもありますので、この辺は新たな感覚でまた生徒たちと相談しながら進めてまいりたいと思っています。

**○議長（逢見輝続君）** それでは、質疑途中ではございますけれども、ここで昼食のため1時まで休憩いたします。

休憩 午前 11時49分

再開 午後 0時57分

○議長（逢見輝続君） 休憩前に引き続き総括質問を続けます。

次に、5番、堀議員、どうぞ。

○5番（堀 清君） 私は、産業振興のほうで聞きたいと思います。

まず、前議員さんも冒頭の中で、加工協のことに対してはさまざまな観点から申し上げているのですけれども、今回の加工屋さんの廃業ということに対しては、当町の基幹産業としてのダメージ、打撃、すこぶるでかいところがあると思うのですけれども、当町の経済としてどれくらいのダメージというものが出るのかということに対して、きちっとした形の中で調査だとか確認だとかということを経後の課題として検索していかなければだめだと考えているのですけれども、そういう面で行政として考えているのかどうかということでもとりあえず質問したいと思います。

○町長（本間順司君） 行政としては考えています。今はまだ流動的でございますので、どこがどうなってどういうふうになるかというのがまだ定まっておられませんので、それが決まらなるとさまざまな数字も出てこないのではないかなというふうに思っております、その把握はやっぱりきちっと調べておかないとだめだろうというふうに思っています。

○5番（堀 清君） まず、12年前に私が初当選してから、この加工協のことに対しては行政側の力強いてこ入れというものが絶対必要なのだよといった中で、議会も当然ですし、行政としても今回のことに対しては、町の基幹産業の大黒柱がそういう中でなくなるという面では、自分らの責任もかなりあるのではないかなと今回の事実が発覚した中で自分自身も考えているのですけれども、今後こういったことが絶対に繰り返さないような行政であり議会というものをつくり上げていかなければならないと思うのですけれども、大黒柱が廃業になったという面で今後どのような形が想像できるのかなと考えた場合に、とりあえずは漁業というものをきちっと基幹産業として再度立て直すということしかないのではないかなという気がするのですけれども、そういう面で町長の考えを聞きたいと思います。

○町長（本間順司君） ちょうど堀議員がなられたところが、昭和41年に加工協が設立して以来最大のピーク時を迎えて、148億という取扱高を誇っていたわけでございますけれども、そのときは私も就任した当時でございます、大変喜ばしいことだなということで、もろ手を挙げて加工協を応援してきたということでございます。ただ、その当時は力もあつたものですから、応援も何も要らなくて、要するに加工協自体でさまざまな加工振興ができたということでございます。それがだんだん、だんだん、ご承知のとおり下降線をたどってきました、そんな中で心配はしておりました。ただ、いかんせん情報がさっぱり入ってこなかったというのが、我々ももどかしく感じていたということでございます。もう少し早くにこういう状況が入ってくれば、どうにかなったということはこの場では言えませんけれども、何らかの方策ができたのではないかなというふうには思っており、残念に思っているところでございます。

そんな中で、では加工業がだめになったから漁業のほうにということでございますけれども、こ

れも議員ご承知のとおり、それこそ太平洋、オホーツク、日本海という3漁業地域がございまして、日本海が一番最低の地域でございます。今年度もまた当古平地区におきましては、昨年度の水揚げを現時点で下回っているということでございます。その漁業もだんだん、だんだんとじり貧になってきて現在に至っているというようなことでございまして、日本海のどこの地域を見ても話を聞いても、本当に大変だなということでございまして、抜本的な国の施策を要望したい。したいけれども、何も方策がないというようなこと。ですから、こういう漁業方法がいいのか。来る魚をとるといふ漁業方法。一番いいオホーツク海につきましては、いわゆる育てる漁業ということで、ホタテだとかそういうものが毎年いい成績をおさめているということでございます。

それに加えて、日本海にいたイカもホッケもオホーツクに行ってしまうというような変な現象が起きておりまして、どうやれば日本海の漁業振興ができるかということで、今北海道にとっても日本海地域が大変な時期に来ているということで、その対策は本当に全道的に考えていかなければならないということ。これは、知事もそうおっしゃっておられますので、これからさまざまな検討が必要であろうということでございますので、昔からの古平の産業の基幹でございます。我々も漁業振興を図ってまいりたいというふうに思っております。

○5番(堀 清君) あと、今回新しい市場が完成するに当たって、町長も方針の中で述べているのですけれども、漁協祭のあり方という中で、これも一つ提案したいのですけれども、現在3年くらい前から、要するに現場で魚介類を炭火で焼いて食べさせているのですけれども、そういう面で基本的には環境の影響面だとかそういうのを考えると好ましくないというか、とりあえずは祭典というような形の中で実施はしているのですけれども、せっかく今新しい建物が建ちますので、若干の簡単な形の中で結構ですので、そういう施設等々も建設できないかなと考えているのですけれども、そういう中はどうでしょうか。

○町長(本間順司君) 議員おっしゃることはつまりは、屋内でそういうイベントなり食べれる場所がということでしょうか。一つのいいところは、我々も漁協祭を見て思うのは、青空の下で魚介類を食べるといふ、そういう健康的な面、それらも一つの魅力かなというようなことで、広場も石ころがらでございましてけれども、少し整備して、そこでそれこそいろんな催しもできるようになったということでございます。ただ、今建てているやつは衛生管理型の施設でございますので、なかなかその点というのは難しいかなと。仮にやるのであれば、ある程度棟を離して、そういう形であちこちでやられている、そういう施設にできればいいのかなというふうには思いますけれども、改めて財政需要もかなりかかるものですから、その辺は今後また検討させてもらいたいなというふうに思っております。

○5番(堀 清君) 十分に検討してもらいたいと思います。

あと、今回自分らの農協なののですけれども、解散という結果が出まして、組合員はそれぞれ、それぞれの考えで他町村のJAのほうに加盟をしたというような形の中で今現場のほうは推移しているのですけれども、今回町のほうでかんがい溝の管理をやってくれるということで、現場としてはとりあえずはきちとした形がとれて安心はしているのですけれども、今のかんがい溝というのは、決壊する場所等々も結構あるのですけれども、そういう面で今後の計画としてかんがい溝の整備等

々は考えているかどうか。

○町長（本間順司君） 今までも、整備してきた場所とそうでない場所とございます。ただ、今回町のほうに移譲になったというようなことで、詳しい場所等につきましては今後調査してみなければわからないというようなことで、もし使用のほうに不備があるのであれば直していかなければならないだろうと。その際には、やはり今までどおり農業者の皆さん方にもご協力を仰がなければならぬということでございますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

○5番（堀 清君） そうというような形になったら、きちっとした形をしてもらいたいと思います。

それとあと、林業なのですけれども、まず計画的な形の中で植林等々は計画なされているのですけれども、現在の金額のかけ方というのはちょっと少ないように考えるのですけれども、現状で林業に対する経費というものを増大するというような考えはございましょうか。

○町長（本間順司君） ご承知のとおり、鼻垂石線が一度道のほうからだめだと言われたのですけれども、今回復活することになりまして、その整備が可能になったということでございます、その先には町有林等もございまして、それらにつきましては整備を図っていきたい。と同時に、近隣に民間の方で所有している山林もございまして、そういうところも民間の方々にお願ひして事業をしてもらって、国なりの補助金をもらいながら進めてもらえればなというふうに思っております、それには我々もそれこそ惜しみなく協力したいなというふうに考えておりますので、もしそういう近隣の所有者がいれば、皆さん方のほうからもご推奨くださいますようお願い申し上げます。

○5番（堀 清君） 植林という事業は、基本的には10年だとか20年、30年という長期的な計画でなされるものではないかなと思うのですけれども、環境を整えていくというのは、すごくこれからは大事なことで、基本的には町有林ばかりでなくて民地等々もあるのですけれども、最終的には今の地主さんは、そこまでの考えというのではないだろうし、そこまでの行動はとっていないと捉えるのですけれども、そういう中を行政が将来のために植林をしていくというような考えはないですか。

○町長（本間順司君） 民有林の方々の植林活動といいますか、それにつきましては、所有者を見てもみますと、かなり古い所有者がおりまして、相続の関係が難しいというようなことがたくさんございます。我々も前々から、それこそ不在地主の方に対して、羊蹄森林組合の方々と一緒にそういう造林事業をやってくださるようお願いしてきた経緯もございまして、なかなかそれも大変だなというようなことで、それを町が肩がわりしてやるというのも、これまた財政的に厳しいものがあると。以前も申し上げたことがあろうかと思っておりますけれども、今町営牧場のこれからの利用の仕方もありますので、それらも勘案しながら、それこそ今森林、造林時代だというようなことで、環境にも大変いいというようなことで国も推奨しているところでございまして、それらの国の政策とあわせながら、町のほうのそういう森林施業のほうもあわせて考えてまいりたいというふうに思っております。

○5番（堀 清君） 今度は教育長のほうに聞きたいと思います。

先般子ども議会が開催されまして、私も初めて傍聴というものをしたのですけれども、そういう中で感じたことは、せっかくの子供たちの議会なのに先生方が枠をはめているような感じで捉えたのですけれども、そういう面、教育長はどのような形の中で。今回の子ども議会だけで結構ですので、感想として。

○教育長（成田昭彦君） 6年生の総合学習の中で勉強してきて、今回は防災というテーマ、去年は古平の観光みたいなことでやっていましたけれども、今まで取り組んできたことを自分たちでまとめながら、そういったことで発表の場、そして町側にも聞いてもらうという方向で進めていますので、私は私なりに、それなりの子供たちの成果かなというふうに考えていますけれども。

○5番（堀 清君） まず、今回テレビ等々でも、地元の小学生が自分たちの町の防災に対する現場の調査ということで、こういう場面のときにはどこに避難するだとかというのを、子供たち自身が現場の調査をして、地図というか、マップをつくり上げて町民に対して配布しているというような形の中でテレビで報道されていたのですけれども、現場の教育というのはこれからますます大事なことだと思うのですけれども、例えばの話、自分らが学生のころは、田植えしたとかジャガイモを植えたとかというふうな形の中でよくやったのですけれども、現場教育という面で、今後としてどのような形のものを考えているか、事例を出しながら説明してもらいたいと思います。

○教育長（成田昭彦君） 学習指導要領、前はゆとり教育ということで、結構そんな時間があったのですけれども、今は総合学習の時間というのは年間通して減らされました。そういった中でやっているのは、学年によって違いますけれども、田植え等は畑を借りてやって、収穫したものを自分たちで食べるというような取り組みはしてございます。今現場等、そういった考え方で学校教育でやっているのはそれくらいのもんです。あとは、社会教育を通じて、わんぱく王国等で春に野菜の種を植えて、収穫祭という形でやっています。そういった中で、徐々に現場でのそういった授業というのは減らされてきております。

○5番（堀 清君） あと、学校給食なののですけれども、今回新しい設備等々で、そういう中で調理されているのですけれども、従来とは違った形のさまざまなことというのが出てきていると思うのですけれども、そういう中のものがありましたら。

○教育長（成田昭彦君） 去年から栄養教諭も配置されまして、自分のセンターで米飯できるということで、子供たちはすごく今米飯を喜んでます。今までみたいに炊いたものを運んでくるのではなくて、自分のところで炊いたものをそのまま食べれるということで非常に評判よろしいですし、また地元のそういった魚を自分たちで揚げて、自分たちというのは子供たちではなくて、給食の中でカレイの空揚げですとか、そういった揚げ立てのものをそのまま食べれるということで、非常に子供たちからは給食は評判いいです。

○5番（堀 清君） どうしても地元の食材を使うということに対しては、経費面で結構高くなっていると思うのですけれども、給食代等々の経費面での問題点等々ありましたら。

○教育長（成田昭彦君） 今年度といたしますか、26年度の学校給食運営協議会の中では、今消費税も5%から8%に上げられますけれども、26年度については今の経費の中でやって賄っていかうという話になっていますけれども、10%になった場合に1食当たりの単価がどう変わっていくのか、

その辺を精査しながら、来年度27年度にはそういった給食費の見直し等も考えていかなければならぬのかなと思っております。ただ、今米飯については以前の単価同等でやってもらっていますので、農協も解散されました。その辺も含めて、また検討は必要なのかなと思っております。

○5番(堀 清君) 最後になりますけれども、給食を食べて、最終的には全部完食ということにはならないと思うのですけれども、残留というか、子供たちが食べなかったものというのが全体のどれくらいになっているのか。

○教育長(成田昭彦君) 残食については、そんなはないと報告受けています。以前よりも、米についても全部処理できるような形で、残食についてははないという。地元の入れてからはすごく評判いいということで、うちの栄養教諭の給食だよりのほうから父兄のほうにそういったチラシを配布していますけれども。

○議長(逢見輝続君) それでは次に、高野議員、どうぞ。

○6番(高野俊和君) 初めに、加工協の倒産問題、るる出ておりますけれども、それに関連しまして、町長もここで述べておりますように、離職者対策も急務であると書かれておりますけれども、まさにそのとおりだというふうに思います。先日会館でハローワークの説明会がございましたけれども、ちょっとのぞいてみました。三、四十代、50代ぐらいの若い世代が七、八十人はいたのだろうなという感想を持ちました。働き盛りですから、仕事がなくなるというのは大変なことだろうなというふうに感じました。これからのことで、まだ町長さんもすっかり判断は難しいだろうと思っておりますけれども、古平町でことし新しく指定管理で高齢者住宅、また古平町物流の荷さばき所が事業として立ち上がるわけですが、離職者に対しまして、こちらのほうの仕事なども少しお願いするということは、考えにはあるのでしょうか。

○町長(本間順司君) 高齢者福祉施設につきましては、古平福祉会のほうで管理人を1名採用して配属するというようなことでございますので、それらは福祉会のほうに人選を任せると。町のほうでは、指定管理料としてその分の人件費をお支払いするという形でございます。

それから、荷さばき施設につきましては、新たな人員が必要なかどうか、それは定かではなく、漁協の運営というようなことでございますので、そちらのほうはそんな人は要らないのではないかなというふうに思っておりますけれども。

○6番(高野俊和君) これからのことで、なかなか予想つかない部分があるのだろうと思っておりますけれども、高齢者住宅に関しましては、新しい事業が立ち上がるわけですから、どういう仕事内容になるかはまだわかりませんが、新しい事業ですから、少し雇用はあるのではないかなという感じはしますけれども、その辺古平町のほうから少し強く推薦するということは考えているのでしょうか。

○町長(本間順司君) 住宅を建設したのであって、1階は古平福祉会さんのほうで活用するのだというようなことでございまして、新しい事業だからといって人が必要だということではございませんので、その辺はお間違いのないようにご理解願いたいと思います。

○6番(高野俊和君) 本来、事業といいましても高齢者住宅ですから、それにかかわる人員というのはそんなに必要はないというのは私も承知しておりますけれども、少しでも古平町に関連する

仕事につければ、そういう機会があったら古平町のほうからもお願いをしておけばいいのかなというふうに考えておりました。

次に、8ページの漁業振興なのですけれども、ここで今私、古平町水産物荷さばき所と言いましたけれども、もともと東しゃこたん漁協ですけれども、水産物荷さばき所が指定管理なのだと思いますけれども、ここは古平水産物荷さばき所という、そういう名称になるのでしょうか。

○町長（本間順司君） 町の施設でございますので、本来であれば漁協さんだというふうなご理解のもとでしたけれども、そうではなくて、町で建てて、指定管理を東しゃこたん漁協にお願いするというようなことでございますので、そういう名称でございます。

○6番（高野俊和君） そうしたら東しゃこたん漁協古平水産物流通荷さばき所ということになるのだらうと思いますけれども、わかりました。

（何事か言う者あり）

○6番（高野俊和君） 違うのですか。

（何事か言う者あり）

○6番（高野俊和君） ということは、分かれるというか、東しゃこたん漁協は東しゃこたん漁協で、古平水産物荷さばき所は古平水産物荷さばき所ということで分かれるということですか。

○町長（本間順司君） 分かれるとか分かれなとかではなくて、荷さばき施設そのものが町の施設でございますので、古平町の施設。管理を東しゃこたん漁協にお任せすると、委託するということですので、そのとおりのご理解願いたいと思います。

○6番（高野俊和君） それはわかるのです。ただ、名称……

○議長（逢見輝続君） 高野議員、挙手して、指名されてから質問してください。

○6番（高野俊和君） こだわっているのは名称の問題であって、名称がどうなるのかなということ。東しゃこたん漁協古平水産物荷さばき所とつながるのか、それとも東しゃこたん漁協、それとこっちの古平水産物荷さばき所ということになるのか、名称のことだけこだわったのですけれども。

○町長（本間順司君） ここに書いているとおりでございまして、古平町水産物荷さばき施設。ですから、あくまでも古平町の施設だということでご理解願って、東しゃこたん漁協に指定管理で管理を委託するのだということでご理解願いたい。

○6番（高野俊和君） 次に、9ページの農業振興についてですけれども、先日4月で農協が解散しまして、その後古平町から他の農協に加盟するかどうかの説明会みたいなものがあったと思うのですけれども、他のところに加盟したところというのは結構多いのでしょうか。

○町長（本間順司君） 説明会は終わったのですけれども、あと個々にどういうふうな正組合員になるか準組合員になるかにつきましては、まだその結果は聞いてございません。

○6番（高野俊和君） ここで聞くことなのかどうかわかりませんが、こういう品物というのは、加盟した農協名で品物が出るものなのか、古平町で栽培されたものは古平町の名前で出回るものなのか、その辺はどうなのでしょう。

○町長（本間順司君） 具体的に専門的になってしまいますけれども、我々としては古平ブランド名を使ってもらえれば一番いいのでございますけれども、新おたる農協の組合員というようなこと



になれば、その方針に従わざるを得ないのが通例ではないでしょうか。もし古平ブランドを認めてくれるのであれば、古平を使ってもらえれば幸いだなというふうには思っていますけれども。

○6番（高野俊和君） 小中学校が地場のものを給食に使っていると思うのですけれども、それに関しての影響とかそういうことはあるのでしょうか。

○議長（逢見輝統君） 教育長に対する質問になりますか。

○町長（本間順司君） その辺につきましても、まだはっきりしたことはわかりませんが、先ほど堀議員の質問の中にもあったかなと思ったのですけれども、それはなかなか難しいかな。これからの新しい農協さんとの折衝にもなるかなというふうには思っていますけれども。

○6番（高野俊和君） 次に、11ページなのですけれども、商工業の振興なのですけれども、先ほどからプレミアム券のことが出ておりますけれども、今回の加工協の破産で、商工業界にもかなり影響を及ぼすと考えられますけれども、各商店ももちろん打撃をこうむるわけですけれども、商工会本体自身もかなり打撃はこうむるだろうというふうに思います。運営上でも大変なのだろうと思いますけれども、毎年町より520万ほど助成がありますけれども、今後そういう助成に関しても、古平町から少し上乘せとかそういうことも考えられるのでしょうか。

○町長（本間順司君） 今人件費の助成はしてございます。今後、加工協の動きにもよりまして、新しい財政出動もやはり考えなければならぬのではないかなというふうには思っていますけれども、今のところ具体的な方策はございません。ただ、将来的にそういう会員が減る結果に対しましては、ある程度そういうものも加味していかなければならぬのかなというふうな気がしてございますけれども、まだ具体的にはどういうふうになるかわかりません。

○6番（高野俊和君） 次に、11ページの観光の振興についてでありますけれども、まず初めに出ているのがパークゴルフ場ですけれども、パークゴルフ場の入り込みが大分減っているということで、町長も雪解けのおくれなど書いておりますけれども、他町村にもたくさんゴルフ場ができて、競合するというのもあるのでしょうかけれども、パークをやっているお客さんの話を聞きますと、春先のクリにつく虫が大変多いと。それと、夏のブヨも大変多いということで、その辺も少し他町村から来る人たちが古平町に来るのをためらうという事情にもなっているようですけれども、その辺のことは対処できるのではないかなというふうに思いますけれども、その辺はどう考えておりましたでしょうか。

○町長（本間順司君） 私は、今虫のことは初めて耳にするわけですがございますけれども、その辺に関しては議長さんが一番詳しいのかなと思って、もしそういう何か有効な対策があれば。ただ、どうなのでしょう、指定管理のほうからは別にそういう話もないものですから、もしそういうので来るのをためらっているのであれば、何らかの対策を考えなければならぬのではないかなというふうに思っていますけれども。

○議長（逢見輝統君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時37分

再開 午後 1時38分

○議長（逢見輝統君） 再開します。

○6番（高野俊和君） 大体わかりましたけれども、薬の問題なんかもあるのでしょうかけれども、農業者も薬を使用しているわけですから、そんな害にならないようなこともあるのだらうと思いませんけれども、有効な対策をとって、少しずつふやしていくようにしてもらえればというふうに思います。

同じく観光なのですけれども、しおかぜもいま一つ、しおかぜ夏祭りなどもいま一つアピール不足で、話題に乗らないというような感じがしますけれども、4月に高齢者住宅が開設されますと、ますます利用者が減るような気がするのですけれども、古平町は大変な時期なのですけれども、3年目となるしおかぜを初め、温泉のほうにも少してこ入れする必要が出てきたのではないかと思いますけれども、どうでしょうか。

○町長（本間順司君） 確かに夏祭りもおとなしくやっているというような感覚で、一応PR不足もあるのかなと思ったりして。ただ、あの規模にしてはちょっと小さ過ぎるかなと。私も毎年行っているのですけれども、もうちょっと派手でもいいのかなというふうにも思っています。堀議員もおりますけれども、出店もされてございますので、もう少し出店される方が多いといいのかなと思ったりして、今後その方策も考えていかなければならないのではないかとこのように思っています。

○6番（高野俊和君） ことし、温泉に指定管理で初めて800万ほど計上されておりますけれども、その中には多分施設とか営繕費とかいろいろ入っているのでしょうかけれども、その中にはそのような観光面において使える運営費というか、そういうのも入った計上なののでしょうか。

○町長（本間順司君） 今年度の予算で指定管理料がふえているのは、施設の維持管理の関係で浄化施設のろ過の清掃だとかそういうところでございまして、観光面云々くんぬんというのは入ってございません。

○6番（高野俊和君） ということは、今までと同じく、運営費に関しての補助は、これは全く入っていないという、こういう考えでいいのでしょうか。

○町長（本間順司君） そういうことで、福祉券の部分だけはそれに含まれておりますので、そのとおりにご理解願いたいと思います。

○6番（高野俊和君） 次に、12ページの生活環境の施設でありますけれども、今年度、清川団地の建てかえ、栄団地の改築、また清川の解体など書かれておりますけれども、どの住宅も古くなるとそうなのではしょうけれども、冬になりますと雪の処理に大変困って、住宅を持っている町内はかなり大変です。町民からもかなりいろいろと、全戸入っているわけではありませんので、隣の雪の問題とか大変苦慮しておりますけれども、私の町内の旭団地につきましては2階建てですので、改築ということはほとんどあり得ないのだらうと思えますけれども、建てかえ、取り壊しみたいなものは10年度計画にたしか入っていたように思いますけれども、ここ何年かで建てかえとか取り壊しとかという、そういう考え方は古平町のほうにはあるのでしょうか。

○町長（本間順司君） 今回の住宅の事業に関しましても、住宅の長寿命化計画を策定しました中に年次計画を立てておりますので、それらを参考にしていただければなというふうに思っております。

す。そういう計画もございます。

○6番(高野俊和君) たしか総合計画の中の平成30年までの中に入っていたなというふうには思うのですが、旭住宅自体もかなり古いというのもあるのですが、2階建てというのが大変厄介な問題で、入る人の考え方もあるのでしょうかけれども、なかなか除雪や雪をおろすのが大変で、毎年苦情の電話が来ます。ただ、隣が歯抜け状態になっておりますので、雪が入っているほうに来ますので、それも少しはしようがないなと思いつつも、なかなかその問題に答えるのが難しい状況になっておりますので、ぜひ旭住宅のほうも考えていただければなというふうに考えております。答弁は要りません。

次に、教育長のほうにお伺いをします。今年度も、中学校の必修であります柔道の授業に1、2年生、五、六時間ほどですが、自分なりに楽しく指導できたかなというふうには思っておりますけれども、少ない時間ではありますけれども、両学年、1年生とも見学者がことしは一人もおりませんので、全員元気に参加しておりましたので、大変よかったなと思っております。振る舞いにおいても、特に問題があるというような感じの生徒はおりませんでしたから、そういう点では大変よかったなと思うのですが、全体的な問題としまして、なかなか今の子供、ほどほどというのですか、余り物事が長続きしない傾向があるのかなというのも少しありました。少年団活動などにせっかく入部しても、簡単にやめてしまう子供が多いですし、大変残念に思っております。家庭の中でも、本人に任せるといふか、本人を尊重するという考え方もあるのでしょうかけれども、粘り強く継続していくということも大変意味があるのだということ、学校の現場を通して指導してほしいと思っておりますけれども、教育長のお考えはどうでしょうか。

○教育長(成田昭彦君) 確かに今の子供たち、そういった粘り強さというのですか、昔でいう根性がないといえますか、この間高野議員と柔道を指導しても、教えるというよりもけがさせないほうに気をつけなければならぬという今の子供の現状でございます。まして、私ども、今中学校、体育の先生がおりません。免外で実施しているような状況でございますけれども、そういった中でやっていくには、柔道ですとかそういったものは少なくなってきましたけれども、その分どうしても小規模校になりますと卓球ですとかバドミントン、そういったものに走っていくというのがこの傾向でもあるのですが、私どもの中学校も今バドミントンが盛んになってきておりまして、全道大会へ行くような形になってきております。

そういった根性、私どもはそういうふうには習ってきたのですが、今の子供たちになかなかそういうのを教えるというのは至難のわざかなということで、先生たちを通じて、そういった指導等ができるような体制は考えていかなければならないと思っておりますけれども、なかなか難しい。この間の授業の中でも、やはり集中してできないというのが今の子供たちの現状でありまして、それは勉強についても同じことが言えるものですから、家庭との連携を図りながら、そういったものに努めてまいりたいと思っております。

○6番(高野俊和君) 別に格闘技をやって根性を植えつけたいとかそういう考えは毛頭ないので、何をやってもいいのですが、ただせっかくクラブ活動とか少年団活動をやった子供たちが、したらほかのことをやって、すごくそれにあれるかというふうにも余り見えませんし、中学校が

バドミントンが盛んで、いい成績をおさめているというのを知っています。ただ、前に小学校あたりでも、小学校3、4年生になると、ミニバスケットクラブとか何かを担当の先生が立ち上げて楽しくやった。それがずっと中学校でもそういう粘り強くやるということが続いて、中学校のバスケットも盛んになったというようなこともありますし、今のご時世ですから、子供たちにこれをあれするという時代ではないのしょうけれども、そういう環境をつくるということは非常に大事なことでと思いますので、小学校、中学校単独でやらないで、小学校からそういう教えを続けて、中学校でも粘り強く指導できたらいいのではないかと思いますけれども、どうでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 確かに、専門的な教職員が赴任してきた場合には、部活というのですか、そういった活動が活発化するという傾向がございますけれども、今なかなかそういった先生も、メジャーな先生というのはなかなかいない状況でございます。そういった中でこういった子供たちを指導していくというのは、先ほど本間議員からもありましたけれども、ボランティア活動ですとかそういった中で、町民からでもお願いした形でそういったものを子供たちに教えるという、そういった教育が必要なのかなというふうに思いますので、その辺はこれからまた考えていきたいと思えます。

○6番（高野俊和君） 確かに技術を持っているのにこしたことはないのです。それは、言ってみれば中学校の後半から高校生以上は技術ある指導者が物すごく必要になりますけれども、小学校とか中学校の初めは、技術のあるのは1、2、3番でいったら3番ぐらいですね。多分教えるとか一緒にやるとかという気構えというか、そういう熱意みたいなものが伝わればやるのだと思います。現に教育長も一緒にやりましたからあれですけども、1、2年生はけがも注意しながらやりましたけれども、結構楽しそうにやっていたと思いませんか、それなりに。

ですから、多分サークルでも何でも、最初に先生も一緒にやって、そういうことを集めてやることによってそういう気構えみたいなものができてくると思うので、まず集めることです。そして、一緒に遊ぶことです。その中から何が自分に適用していくのかというのは子供もある程度見分けますから、技術ももちろんあったほうがないよりはいいですけども、小学生、中学生なんかは技術よりも、まず一緒にやろうという気構えが相手に伝わるかどうかだと思うのですけれども、その辺の指導も、教育長に言うのは大変申しわけないのだけれども、大変難しいのですけれども、その辺も先生方にも伝えて、粘り強くやってくれということを再度お願いしたいと思えますけれども。

○教育長（成田昭彦君） 高野議員と一緒に柔道の指導に行きまして、高野議員はそれぞれ個々に少年団に入れ、入れという勧誘をしていましたけれども、なかなか、うん、わかったという子供はおりませんでした。確かに、先生方のそういった活動、そういう姿が大事かなと思いますので、その辺先生方と連携図りながら進めてまいりたいと思えます。

○6番（高野俊和君） 最後になりますけれども、文化会館や、スポーツの拠点であります施設であります、交流の場であります海洋センターにも触れておりますけれども、最少の人数で最大の効果と書いてありますけれども、あそこはいろいろと仕事も、全部多いのですけれども、行事も多いですから、ぜひ優秀な人材を多く派遣してもらいたいと思えますし、また管理職の人事を初め教員人事がそろそろ始まると思えますので、教育の人事は当然生徒指導に大きく影響しますので、成田

教育長の手腕に期待をして終わりたいと思います。

終わります。

○議長（逢見輝統君） それでは、高野議員の質問を終わります。

ここで2時5分まで休憩いたします。

休憩 午後 1時53分

再開 午後 2時04分

○議長（逢見輝統君） 休憩前に引き続き総括質問を続けます。

次に、7番、木村議員、どうぞ。

○7番（木村輔宏君） いろんな方がいろんなことをお話ししましたので余りしゃべることはないのですけれども、町長は毎年みたく漁協祭に顔を出していますよね。いつも聞いて思うことが1つあるのですけれども、さっき違う方が違うお話をしていましたけれども、毎年行くと、あの漁協祭で必ず聞くのが、ここはいいよね、魚をさばいてくれますよねという話をするのです。そういうようなアイデアがあれば、アイデアというか、そういうものをチラシに入れたりすると、逆に宣伝効果。いろんなところでお祭りをやっても、そういうものって書いていないよねと言うのです。

○町長（本間順司君） 漁協祭でも鮮魚の売れ行きがいいのです。それと、どなたかの野菜の売れ行きがかなりいいということで、時間前に完売してしまうというような。鮮魚のほうもそのとおりで、大変来られる方が喜んで買って帰るそうでございますので、それらもPRしながら、これからやっていければなというふうに思っております。

○7番（木村輔宏君） そういうようなアイデアの仕方によっては、また宣伝効果が違ってくるのではないかなという気がいたします。

それと、加工協の話で、違う形で聞きたいのですけれども、加工協の冷蔵庫をつくったときにたしか2億くらいの助成金を出している、ちょっと定かでないのですけれども、4億か4億何ぼで、たしか2億くらい出していたと思うのですけれども、あの冷蔵庫を活用するとかどこかに売買するというような物事のときに、半分くらいの助成を出してあるのであれば、古平町の方々に利用できるような貸し方というものは、助成金を出しているからといっても、そういうものに参画するということはできないのですか。

○町長（本間順司君） なかなかこの問題は、国の補助金の適正化法にかかわる問題で、難しい問題でございます。いろいろ振興局のほうとも今相談しております、とにかく加工協が解散する前にはっきりさせなければならないというようなことでございますので、それは急いで今やっている最中でございます。場合によっては町の財政出動も必要になるのではないかなというふうには思っていますけれども、現時点ではそういうことで、かなり厳しい面があるということだけご理解願いたいというふうに思っております。

○7番（木村輔宏君） ということは、まだうわさですから、町長も下手なこと言えないでしょうけれども、ただ再開したいなという方もいるというお話も聞いたことがありますので、もしそうい

う形になれば、やっぱり古平町にそういうものがあって、それを利用するということはいろんな形で効果的に利用できるのではないかと思います、その辺を町長、ひとつ最大努力をしてあげてくれればありがたいなというふうに思います。

それから、旧高校の道路の件で賛否両論が出ていましたけれども、さっきの方とは違う形で私、実際にあそこを歩いてみたのです、下まで。どんなものかと。カーブのところまで来ないと下のほうが見えないのです。ということは、道路が長かろうと短かろうと別にして、見える方向でしないと、散歩に歩いたりお年寄りが歩いていて、もしあそのぎりぎりまで来て車が来たりすると事故の問題が出てくるのではないかと。お年寄りだから歩かないといえればそれまででしょうけれども、それからまた先ほどロードヒーティングのお話もありましたけれども、果たしてロードヒーティングをしたからといって道路がよくはならないだろうと。逆に車が冬でもスピード出したら危ないのではないかなと思うのですけれども、町長さんの考えは、それも考えていますということであれば、もっと緩やかな形の中でそういうロードヒーティング的なものをつけていただければありがたいと思いますけれども。

○町長（本間順司君） 今現道は現道として、歩く歩かないは別にして、危険の回避をするためにロードヒーティングも必要であろうというようなことで、それから一番最初鶴谷議員の質問にあったような中長期的に考える道路というのは全然コースが別になりますので、それらはやはり勾配を考えながら、景観面でどういうふうになるかわかりませんが、その調査も含めた予算を今回盛ってあるということでご理解願いたいと思います。

○7番（木村輔宏君） 防災無線の件なのですけれども、今は月、水、金、1日置きにやっていて、1日置きだと、ああ、何かしゃべっているなという感じで、町民の方々の反応としては何かまたしゃべっているという感覚ですから、できれば、これは私の考えだけかもしれませんが、1週間に1回くらい古平町のこういうお話がありますよというほうが、かえって聞き耳を立てるのではないかなと。これも賛否両論があると思いますけれども。

○町長（本間順司君） 議員おっしゃるとおりで、私も言いましたけれども、煩わしさがあるというような方もいらっしゃるということでございまして、これは本当に賛否両論があるかと思えます。余り煩わしい方は、その時間帯にスイッチを切っておいてもらうような形もとれないかなと思ったりして、要するに災害というのはいつ発生するかわからないということで、24時間スイッチ入れておくのが当たり前の話なのですけれども、耳ざわりなことと、場合によってはそういう情報が必要だという方もおりますので、その辺はなかなかみんながみんないいようにはいかないというふうに思っていますので、その辺は少し聞きづらいかもしれませんが、知らないふりして聞いていただきたいと思います。

○議長（逢見輝続君） 木村議員の質問を終わります。

続きまして、8番、真貝議員、どうぞ。

○8番（真貝政昭君） 皆さんから質問がありました加工協の破綻に伴う件ですけれども、私の関心事は、なぜこういうふうになったかという主な原因を今回、町の一大事ということもありますけれども、再発させないためにも、町としても我々としても学ぶ必要があるのではないかとこのふう

に思っているから聞くのですけれども、いつごろから苦境に陥ったかという点について、2年前の経営診断について町長は触れていますけれども、これまで重要な業界に対する町側の支援、それから国の支援ということで、平成9年に冷蔵庫の建設に当たって両町合わせて3億円ほどの補助をしています。このときに、町長は余り詳しい情報が流れてきていないという答弁に撤しているのですけれども、この事業に町としてかかわったときに、国なり、あるいは町として加工協の決算内容を熟知しているはずなのです。その時点の負債額だとか、そういうものは情報として把握しているはずなのですけれども、今手元にないということで申し上げられないとすれば、あすから特別委員会がありますけれども、そこに提示できるような状況にはあるのでしょうか。

**○町長（本間順司君）** 今その当時の書類等々につきましては、私のほうでは把握していませんけれども、もしあれば、それらが提示できればなと思っていますけれども、とにかくあるかどうか今はわかりませんので、その辺はもしあったら提示したいなというふうに思っています。

ただ、私が今考えるには、そういう事業をやるからには、やはりその当時の財務内容というのはある程度よかったのではないかというふうに判断しているわけですが、そのときはその辺まで、まさかこういう状況になるとは夢にも思っていなかったというふうに思っています。それからだんだん、だんだん取り扱いも伸びて、平成13年ころには、先ほど申し上げましたとおりのピーク時を迎えたということで、上り調子にあったことは確かだなというふうに私自身記憶しています。

**○8番（真貝政昭君）** 最小限、平成9年、補助金を出した当時の負債額がわかれば、私としては今の時点では満足なのです。というのは、幾ら上り調子でも、負債がなかったとか減っていたかというのは、これはなかなか商売上は考えられない状況で、仮に売り上げが上がっても内容が悪くなるという場合が十分ありますので、平成9年当時の倒産時の負債総額は報道されていますので、ほとんど確定していますので、9年時の負債額がどうだったかというのを知りたいのです。ぜひよろしくをお願いします。

それと、報道されているように、3月の時点を過ぎてしまえば、ある程度離職者の正確な数字というのは出てくると思うのですけれども、町側で離職者対策を十分にするというふうの方針を出している以上、ある程度予測される人数あるいは雇用実態などを把握する必要があると思うのです。それで、町の対策もそれによっていろいろと変わってくると思うのですけれども、私は少なくとも、短期雇用の方々なのか、特例一時金を受けている方々なのか、あるいは通年雇用なのかというような、具体的なそういう待遇について、どのような方々が離職されるのかということはある程度予想として把握しておく必要があるのではないかと。私もそういう実態をつかんでおきたいと思うのですが、それは予測としてはできると思うのですが、どうですか。

**○町長（本間順司君）** 議員おっしゃるとおり、ある程度時間がたたないと、継続する事業者であっても一部解雇しなければならぬというような話も聞いております。それからまた、場合によっては誰か別の方に引き継ぐのではなくて新たに再開してもらって、新たに従業員を雇用するというような場合も考えられるというようなことで、この数字というのはある程度時間がたたないと出てこないのではないかなというふうに思っております。この間開いたハローワークの説明会等では、

それこそ81名ほどの対象者がおりましたけれども、その中では大体の数字がつかまれているということでございます。

○8番（真貝政昭君） 一般質問でも離職者対策ということで取り上げておりますけれども、どんな待遇の方々が離職するかで、例えば町条例で減免条項を持っているような、いろんな料金制度がありますよね。そういうのをどのように活用するかというのは、どういう方が離職されてくるかということで対応が違うわけですから、具体的にあと2カ月、3カ月待たないまでも準備体制はとっておくべきかなというふうに私は考えております。ぜひとも力を入れてほしいなと思っているのです。

次に、ページを追って質問しますけれども、家族旅行村の老朽化について触れております。ケビン等の計画が載っているようですけれども、たしか昭和63年オープンの家族旅行村だったと思います。当時からすれば30年近くたって、財政の問題でスキー場の閉鎖ということもありましたけれども、もうそろそろ内容の大きな見直しというものを考えてもいいのではないかと。下のほうは、当時ドライブイン最上さんがありましたけれども、新たに福祉会でマリンハウスという形で事業が引き継がれておりますよね。

古平町の観光としてはプラス面で捉えるべきだと思うのですが、当初の家族旅行村というのは、海岸の部分と上のほうの施設を連携を持たせた構想で動いたのです。冬のほうは、当時の町長は構想にはなかったのですけれども、当時のブームもあったのですけれども、スキー場というのが出てきて、当時の担当者に聞きましたら、今のようなスキー場ではなくて、下のほうまで活用したような、できれば今の第5コースですか、一番新しいコースありますよね。昔授業で使っていたコースです。あちらのほうメインであって、センターハウスだとかああいうのが出てきたために随分変更になったみたいです。

今回のオリンピックを見ますと、冬のスポーツの内容ががらっと変わりましたよね。教育長は子供たちの生活実態について苦慮されているようですけれども、旅行村の老朽化を考える上で、福祉会の事業展開と、それから教育を中心としたことから発想すれば、改めて冬も含めての事業展開、これは建設業者にとっても構想を膨らませれる事業でないかと思うのですが、それと若い方々の失業対策、就業対策、今当町は加工業界のこういう事態に至って、改めて町民から町のリーダー性が求められているように思います。ぜひとも家族旅行村のこういう時点に立って、発想を大転換させて見直すときではないかというふうに考えているのですが、どうでしょうか。単なる老朽化で建てかえだとか修繕だとか、そういうような時点ではないように思いますけれども。

○町長（本間順司君） 真貝議員のおっしゃるのももっともでございますけれども、とりあえず現時点では現状を維持していくというような中で、これからの観光振興、そして多数雇用対策、それらもろもろ盛り込んだ、そういう新しい施設への取り組みといたしますか、そういうものは今後考えていくべきではないかなというふうには思っておりますが、その際にもいろんな方々のご意見を拝聴しながらまちづくりをやっていければなというふうに考えておりますので、その点につきましては今後構想を練ってまいりたいというふうに思っております。

○8番（真貝政昭君） 除雪機械の更新事業でシャッター付きのマルチプラウ購入、賛成します。



できれば民間建設業者にも導入を進めていただくよう希望しているのですけれども、建設関係で町長が触れている中で、リフォーム助成の基準を緩和しまして、予算を前年度に比べて減額するという内容、これがちょっと腑に落ちないのです。基準を緩和して予算を削減する、前年度よりも。これはちょっといただけないなと思うのです。

それとあわせて、新たに定住促進共同住宅建設補助金が今回盛り込まれました。これはどういう事業内容なのか、新たな事業ですので、狙いを知りたいのです。

○町長（本間順司君） 住宅のリフォームの助成でございますけれども、今年度につきましては、要するに条件がきつかったのかというふうな判断もございまして、25年度予算につきましては、需要がもうないよというようなことで減額しました。26年度予算につきましては、条件を緩和した上である程度予算化しまして、もしそういうのがそれ以上にあれば、また追加でも考えてみたいなというふうに思っております。

それから、新しく制度化しました民間の住宅の関係でございますけれども、要するに公営住宅を建てるというふうになりますと、なかなか所得の基準等々がきつくなりまして、希望する方も入れないような状況なものでございますから、そういう方でも入れるような、それこそ公営住宅に入れなくても一般の貸し家に入れるというようなことで、そういうのを民間につくっていただいて、それに対する助成を行うというようなことでございまして、ご承知のとおり喜茂別で永住対策の関係で、永住対策と、それから新しく就職されます方々に対する住宅を手当てするために、そういう方策で民間の事業者を募ったということの事業もございましたので、それを参考にしながら、本町においてもある程度の助成金を出しながら、民間活力を利用しながら住宅をつくっていくというような制度でございますので、ご理解願いたいと思います。

○8番（真貝政昭君） 賛成です。それで、ことし本陣の清川団地の建てかえのための、その関連の予算が計上されておりますけれども、清川の地区は除雪が、解体された空き地に除雪した雪をためおいて、そして後で搬出するというような方式の除排雪をしています。住んでいて実感していませんのは、朝の除雪ですと、一般的に玄関前だとか車庫前に置きっ放しで置いていかれるのですけれども、比較的この方法ですと、まめに出入り口を持っていって来て、そして道路も割と幅広く車道確保も、また歩行者にとっても割と楽に通行できるという利点があるみたいですよ。

それと、住んでいる方たちの冬の苦勞は、とにかく屋根からの落雪の始末、これに参っているということで、本陣に限らず古平町の住宅対策は、土地はあるにしても、除雪のことを考えますと、できるだけ高層。町営住宅でいえば、栄団地、それから清住、3階建てありますけれども、今清住の団地を見ますと、エレベーターが可能になって、3階建て以上でもエレベーターで利用できるような形式になりましたよね。ということを考えますと、本陣の場合も、今後の建てかえに関しても、できるだけ3階、4階、5階と中高層の建物で住戸を確保して、できるだけ駐車場と除排雪のための捨て場の確保というのが大事になってくるというふうに私実感しているのです。そういう方向での検討は今の時点では変えられないものなのかどうかお伺いしたいのです。

○町長（本間順司君） 議員おっしゃるとおり、本陣には雪のため場がございまして、除雪される方も大変やりやすいというようなことでございます。今回考えている部分につきましても、そうい

う空き地を確保しながら建てていきたいということでございます。住戸になるかどうかは別としまして、仮に今度建てるにしても、今までの欠点をさまざま考えながら、それを克服した建て方にしたいなというふうに担当課含め我々も思っているところでございますので、その調査ということで今回予算化しているということでございますので、ご理解願いたいと思います。

○8番（真貝政昭君） 4月からの消費税増税に合わせて与党は、人気取りというか、例のごとくお金をばらまくのですけれども、年収300万くらいの標準家庭にとつたら、今回の増税で5年ほど前に比べて1カ月分くらいの給料が、社会保障の住民負担を合わせると1カ月分が吹っ飛ぶような高負担になるのです。そういうことからすると、わずかばかりのお金で動くのですけれども、今回の古平町の議案を見ますと、4月からの消費税増税に合わせた条例改正はありませんよね。国の方針に逆らってそういう面での条例改正をしないのは大したものだなというふうに思っているのです。地方バスも今回の消費税増税に合わせないで、料金値上げしないというふうに決めているところが多いですね。これについて、ことしの町長の考え方はどういうことだったのでしょうか。

○町長（本間順司君） 別に反対している真貝議員さんのためにやらなかったわけではございませんけれども、ただ8%という、中途半端といえば中途半端的な率もございませぬ。もうすぐ27年度の10月ですか、10%になるというようなことでございますので、それらの時期も勘案しながら検討していきたいなというふうに思っておりますので、その節はご理解願いたいと思います。ただ、やはり消費税を上げていかなければ、社会保障制度もなかなかうまくいかないというようなこともございませぬ。それらもさまざま考えての値上げかというふうに思っておりますけれども、一応先進国に近づけるような形でというようなことだというふうに私は理解しておりますので、そのとおり、この次の10%時には検討させていただきたいというふうに思っております。

○8番（真貝政昭君） 消費税については、これは明らかに輸出大企業に対する補助金の性格を持っています。平成25年度の見込みで、消費税のこういう企業への還付金というのは約2兆円になるようです。それで、地方消費税のほうも含めると、2兆5,000億が輸出企業への還付金ということになるのです。これが仮に10%になると5兆円が還付されると。我々消費税4%で10兆円が国の一般会計に収入として丸々入ると思ったら、まるっきり違ったのです。正味が違ふと。ということで、今回の加工協の破綻に関して、私は消費税がその原因の大きな要因ではないかというふうにならんで、それは一般質問で町長と意見を交わしたいのですが、次に移ります。

医療体制の件で町長は、微妙な時期ということで余り触れられていないのですが、ことしは特に特別養護老人ホーム、この計画に関しても重要な年になるはずなのですが、これには一切触れられていないのです。掖済会後の体制もあって、触れられない状況なののでしょうか。

○町長（本間順司君） なかなか民間にお願いしているということもございまして、一応広域連合への施設の建設希望につきましては提出はしてございます。ただ、そういう微妙な関係があるものですから、今回はここには載せませんでしたけれども、引き続いて民間に強力をお願いしていくというようなことございまして、民間にお願いするに当たりまして、一応診療所のことも、一緒くたにはならないと思いますけれども、それらも頭に入れながら今後とも折衝してまいりたいというふうに思っております。

○8番（真貝政昭君） 教育長に2点伺います。

通学している高校生に対する通学費助成なのですけれども、これに対しては賛成します。それで、昨年の中村議員の一般質問で答えられたと思うのですが、道で助成していた関係、道のおかげで不便さを強いられているところがあって、当たり前のことを道はやってきたのですけれども、教育長は町でやるということで、交付税の対象になっているという答弁がありました。道がやっても、同じ自治体で交付税の対象になるはずなのに、なぜ古平町がやらなければならないのかという疑問があったのです。どうなのでしょう。

○教育長（成田昭彦君） 交付税の対象ではなくて、過疎債の対象になるというふうに答弁したと思いますけれども。ですから、本来ですと22年度から5年間ということに進んでいるわけですけれども、道も廃校してから5年間ということ、それを継続してやっていくような動きもあったと聞いております。全道の教育委員会協議会の中でもそういった要望を上げております。継続してやっていくようにということで要望を上げておまして、その辺の中身で、昨年度はそれに期待していたのでございますけれども、それが道のほうできちっと5年間で打ち切ったというものですから、それであれば今の状況で、今経済状況は古平も大変ですので、そういった中でこれは町としても継続してやっていかなければならないのではないかとということで、今回予算措置させていただいたわけでございます。

○8番（真貝政昭君） 過疎債であろうと交付税であろうと、大体似たような率で国のほうから出てくるのですけれども、交付税についても過疎債についても国の言い分というのは怪しいもので余り信じたくないのですけれども、何にしても道の基準からすれば若干劣る補助になりますよね。今回のやつは。その分については道に賄わせる取り組みというのが必要だと思うのですけれども、どうでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 私もそのとおりだと思います。ですから、今までどおり継続して遠距離通学費の補助については、全道の教育委員会協議会を通して、後志にも教育委員会協議会があるのですけれども、私もその役員になっていきますので、その辺は要望としてこれからも継続して上げてまいりたいと思っております。

○8番（真貝政昭君） 最後に、教育予算の中で文化活動関係に関する予算なのですけれども、一般を対象にした鑑賞、演劇にしても何にしても10万少しということで、私が記憶している10年ぐらい前の記憶ですと20万ぐらいあったのが半減していますよね。20万でも大したことできないというふうに見ていたのですけれども、半減と。それから、あと見られるのが、文化団体連絡会に対する助成も十数万ということで、地域の文化を守り発展させるという点からいえば、極めて脆弱な予算という感じがします。

昨年、札幌在住の方々が、古平町の文化活動、それから保存活動に関して危機感を持ってDVDを作成してくれたという経緯がありましたけれども、予算を大幅にふやしてもっと豊かな活動を展開させない限り、本当になくなるという内容の予算でないかと思うのです。ぜひとも、当初はこれで出ていますけれども、補正とかありますので、力を十分に発揮して、町長から予算をとっていただいて頑張してほしいなと思うのですが、どうでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） 過去、確かに20万とかという予算組みしていました。文化鑑賞事業ということでしたけれども、それは町内でやるということではなくて、バスを借り上げて札幌のほうに行くとかそういった事業でございました。ですから、鑑賞するというよりも、交通費にかかるとかそういった面の予算でございました。おととしまでは、それを町内で見せようということで、100万単位で予算組みしていました。それが、去年から無償でそういった音楽活動も聞けるということで、去年は自衛隊のほうで来て小学校でやりまして、結構お客さんが入りました。今年度も予算は少ないようですけども、無償で鑑賞、聞けるとかそういう団体があるものですから、そういったものを利用して、町民の皆様にもそういった活動を広げていきたいなと思っております。

文化団体連絡協議会についても、加盟する団体には、十何万ではなくて六、七十万円だったと思いますけれども、十何万ということはないです。予算の中でまた質問していただければと思いますけれども、その中では各団体に配分して、団体からもそういった不平不満は聞いておりません。

○8番（真貝政昭君） 不平不満とかそういう問題ではなくて、町側あるいは教育長側が先導して担い手をつくり育てていくというのが大事であって、例えば豊年踊りにしても、出自というか、出どころはわかっているわけです。どういう踊りかというのも、東北のほうに聞きますとあの踊りだということで、出どころはわかっているようなのです。だけれども、わかっているながら、何も予算化もされないし動きもないと。これは、永遠として事業を展開していく役所側、これの姿勢いかにかかっていると思うのです。人は動きますから、いなくなりますから、守り育てていくというにはそういう意味があると思うので、ぜひともいろんな面で予算化の取り組みを強めていただきたいというのが私の主張なのです。

○教育長（成田昭彦君） 教育委員会としては予算執行権がないものですから、今の問題に限らず、そういった中で町側のほうに要望するところは要望していきたいと思えます。

○議長（逢見輝続君） 最後に、9番、工藤議員、どうぞ。

○9番（工藤澄男君） まず、鶴谷議員さんが一番最初に言いました古平川の土砂の撤去の部分なのですけれども、今やっているのは古平大橋から河口までということなのですけれども、去年の秋、前に水害があったときに畑が埋まりました吉岡さんの畑の近辺、秋に小樽の業者さんが土砂撤去しています。それから、この工事につきましては、私が仕入れた資料の中では、たしか8年だったか10年だったか、道のほうで例えば護岸と土砂撤去というのを、そういう計画をたしか立ててあったと思うのですけれども、町長、ご存じでしょうか。

○町長（本間順司君） ちょっとそれは記憶にはございません。ただ、去年、おととしやってきた橋から上流のほうは私も現場に行っておりますので、川下のほうのようなきれいな土砂の取り除きではございませんけれども、ある程度木も切ってきれいになったなというふうには印象は受けております。

○9番（工藤澄男君） 確かに今、下のほうはきれいになりました。しかし、上のほうにはまだまだたくさん中州がありますので、せっかく下をきれいに取っても、上からまた流れてきたら同じことが起きるのではないかという心配をしております。

それから、私、古平橋から河口までの両側の護岸、例えば高い波が来れば、今のような土砂でた

だやあってあるのであれば、逆に波による災害が起きる可能性があるのではないかというのを心配しているのです。まして、浜町側には一段低いところに五、六軒の家がありますし、もしあそこが破れたりしますと大変な被害が起きるので、何とか町長、あの部分だけでも、例えばコンクリートによる護岸というのを道なりに要請できないものでしょうか。

○町長（本間順司君） 私も実は、河口を見ながら、いつもそう思っているところでございます。土砂を集めては別なところに持っていったりしまして、いつ護岸形成するのかなというふうには思っていますけれども、ある程度上流が固まってきた段階でできるのかどうか、それは今後土現のほうに照会してみなければわからないことであって、今後聞いてみます。

○9番（工藤澄男君） 今町長もそういう関心を持っていらっしゃるということですが、本当にここ何年間か同じことばかり繰り返して、ただ掘っては脇に置いて、また流された、またたまったというような無駄な金をかなり使っております。それだったら、最初からきちっとしたものをつくっておけばそんなに金はかからないのではないかなと思うのですけれども、これから町長、その点について道のほうによろしくをお願いします。

その次に、漁業振興ということで、ここには書いていないのですけれども、私藻場の整備ということで町長にお聞きいたします。積丹半島の市町村、町の方々はほとんど今、かなり藻場整備ということで力を入れております。先日、神恵内の村長さんが選挙で受かって、その受かったときの挨拶の中で、藻場は大事だから藻場に力を入れるとはっきり皆さんの前でしゃべり、また報道関係にも発表されています。藻場の整備という点について、町長はどのようにお考えでしょうか。

○町長（本間順司君） 私も思うところは同じでございます。銭函、それから祝津、そして余市、水産試験場の裏というふうにニシンの群来が見られるというようなことは藻場があってこそその話でございます。我々も藻場の造成が必要であろうというふうに思っております。今水産課のほうでも、そういう藻場の造成方につきまして、さまざまな研究機関ともお話ししながら進めているところでございますので、今後それに力を入れていきたいというふうに考えております。

○9番（工藤澄男君） 藻場の問題につきましては、今までは浅海の方々がいろいろ努力されたりしておったのですけれども、最近さらにブイの大きい船の親方といいますか、そういう方々の中から、何で余市までニシン来て、古平には来ないのだと。彼らもきちっとわかっているのです。古平には草がないと。だから、ニシンは来ないのだと。だから、何とかしてそういうニシンが来れるような藻場をつくればいいなという希望といいますか、そういうのをこのごろ非常に聞くようになったのです。前は、浅海の人方が一生懸命、藻場づくり、藻場づくりとやっていたのですけれども、ようやくそういう船の方々も言うようになってきましたので、何とか藻場の問題については今後ともまた努力していただきたいと、そのように思いますけれども、どうでしょう。

○町長（本間順司君） そうすることで、先ほど申し上げましたとおり、今盛んに模索しておりますので、今後ともその点につきまして取り進めていきたいというふうに考えております。余市まで来て、古平までニシンの群来が来ないというのも変な話でございますので、それらも進めてまいりたいというふうに思っております。

○9番（工藤澄男君） 次は、植樹祭についてお聞きしたいのですけれども、教育長にもお聞きし

たい面があるので、よろしいでしょうか。

○議長（逢見輝統君）　そしてまた町長に戻るの。

○9番（工藤澄男君）　とりあえず町長と両方の意見を聞きたいのです、この一つの問題で。

○議長（逢見輝統君）　何の問題。

○9番（工藤澄男君）　植樹祭です。

○議長（逢見輝統君）　植樹祭。いいでしょう。

○9番（工藤澄男君）　毎年私も参加しております、今植樹しているところは何年か前に熊の出ているような場所で、ほとんど子供さん方は来ていないです。ところが、去年、たまたま古平のあれにも載っていましたが、若い奥さんが子供を連れて、そして親子で木を植えている写真がありましたよね。そして、前に、正式ではないのですけれども、聞きましたら、あそこは危険なところだから、子供たちを呼んだらまずいのではないかという話があったのですけれども、せっかく木を植えて、この木は何のために植えるのかというのを子供たちに知らせるためには、自分でもってそういうことを経験させて、そしてそれが今度、いつかは例えば海に行くと魚の肥やしになるのだよとか、そういう勉強の場にもなると思うのです。ですから、そういう予定はあるのか、それとももっと安全な場所を、例えば子供たちが植えられるような場所をどこか確保して、子供なら子供たちだけとか家族ぐるみで植えるような場所とか、そういうものを用意できるのかどうか、まず町長と教育長、一言ずつ。

○町長（本間順司君）　現在町のほうで進めております植樹祭につきましては、遠過ぎるというようなことで子供たちには遠慮願っておりますけれども、子供たちのためにはある程度近いところでということで、しからばどういうところがあるのかというのは、まだなかなか見つかってはいない。以前、たしか古平川の吉岡さんの畑の近くでそういう植樹をやったこともございますけれども、そういう空き地等を活用させていただきながら、子供たちにもそういう体験をしながらやればいなというふうには思っております。

○教育長（成田昭彦君）　学校教育の中から今の植樹祭に合わせて実施するというのは無理かなと思っております。ただ、社会教育で実施しているわんぱく王国等で、子供たちを引率しながら植樹祭に参加するということは可能ですので、26年度事業の中で考えていきたいと思っております。

それと、今考えているのが、ことし学校を挙げて、裏庭が整備できましたので、そこを使って子供たちに植樹させようかなというふうに考えていますので、それも今学校側と打ち合わせしながら、そういう方向で進めてまいりたいと思っております。

○9番（工藤澄男君）　今教育長に答弁してもらいましたので、今教育長言っていました裏山、去年確かに何本か木を植えて、そして非常に感じよくなってきています。だから、自分たちが学んでいる校舎の周りを、自分たちの手でもって木を植えたりして緑豊かにするというのも非常にいい勉強になるのではないかと思いますので、いい方向に進んでいただきたいと、そのように思います。

それから次に、先ほどから出ておりました高齢者、道路の問題なのですけれども、私は道路の問題は、皆さんが先ほどから言っていましたのでよろしいのですけれども、この道路はあくまでもこちらから上がっていくような、先ほどからの話を聞きますと、そういうような感じなのですけれど

も、そうしたらいつも私言うとおりの、病院、元気プラザ風花のあの人方をあの道路で逃がすのか、それとももう一本ある道路、沢口さんのほうから逃がすのか、そこが全然議論に上がってこないのですけれども、一番弱い立場の人方があそこにいるということを頭の中に入れてほしいと。その点はどういうふうに考えていますか。

○町長（本間順司君） 今までの避難訓練につきましても、施設の方々を沢口さんのほうに逃がすような方向でということで訓練もしてまいりましたので、今後ともそれらの道筋の確保につきまして検討してまいりたいというふうに思っております。

○9番（工藤澄男君） 沢口さんのほうへ逃がすというのも別に悪いことではないのですけれども、あそこへ上がっていても、結局頭を隠す場所がないのです。ただ、高台ではあるのですけれども、まして体の弱いような人ばかりがそこへもし逃げたとしたら、やはり頭の隠せる場所がなかったら私は大変なことが起きるのではないかと心配しております。ですから、今計画しているような道路を逆に向こうから行けないものかなというのも考えているのですけれども、どうでしょう。

○町長（本間順司君） ちょっと議員誤解されていると思うのですけれども、1次避難場所と避難施設とは違いますので、その辺は一時的に避難するほうは沢口さんのほうに一旦逃がしておいて、それで施設を利用するというふうになったら今の高齢者施設を利用すると、そういうようなことでご理解願いたいというふうに思っております。

○9番（工藤澄男君） それはそれでわかるのですけれども、そうしたら避難して上に上がったと。そして、下が水害に遭っていたら、いつまでもその水が引くまでずっといなければならないわけです。だから私は、建物のある道路というのは電気もついているし、今回の一般質問の中にも書きましたけれども、そういうところには電気だとかいろんなものがあるし、逃げる家もあると。だけれども、実際にそういうものがない道路に逃げた場合に、元気な人であればある程度耐えられるかもしれませんが、病人や、ああいうほとんど体の弱いような人ばかりが逃げるような状態であれば、本当にちょっとの間の時間でも大変なことが起きるのではないかとこの私を私は心配しているのですけれども。

○町長（本間順司君） 仮にそういうふうな大災害であれば、我々の手の届く範囲ではなくて、それこそ大規模な救援対策が必要であろうというふうに思っておりますので、1次避難場所と避難施設とは区別して考えていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

○9番（工藤澄男君） そうしたら、今新しくつくろうとしております道路なんて必要ないのではないですか。違うところに逃げる道路があるので、あの近所には。わざわざ高い金出して、何たかたそこまで逃げなくても、まだ違うところへ逃げれる道路もあります。結局、弱い人をどうやって助けるかということでしょう。災害があった場合、例えば老人が少しでも近いところの高いところへ逃げるとか、そういうのが道路をつくったり建物を建てたりということだろうと思うのです。

あそこから確かにつくれば、真っすぐ今の高齢者住宅には行けます。しかし、あの1本裏ちょっと歩けば、正隆寺さんの裏にぼんと出ます。すごく楽な道路です。私、前にも言いましたけれども、年に3回、春と夏と秋と草刈って、草履履いて歩いていけますよ。そういう道路があるので、き

ちんと。わざわざ何億もかけて……果たしてそうしたら、さっきから勾配がどうだとか何キロあるからどうのとかという議論していること自体が何かむなしく聞こえるのですけれども、それはそれで、まずいいです。

あと最後に、教育長にだけ。先般、先ほど堀議員からもありましたけれども、子ども未来会議、私も拝聴させていただきまして、この資料をもらいまして、いろいろ子供たちの意見、すごくみんな立派な意見で私びっくりしました。たまに私と同じような考えを持っていた子供もあって、私一般質問の中でも同じようなことを書いたつもりなのですが、ただこうやって一生懸命自分たちが調べて、そして町長にこういうふうにしてほしい、ああいうふうにしてほしいという、ああいう子供たちの姿というのは、私びっくりしました。まさかここまで調べてやっているとは思わなかったのです。

ですから、今回はたまたま災害の問題だけだったのですけれども、これから古平で起きるであろういろんな問題、さっきも言ったとおり、例えば木1本植えたらどうなるのだよとか、そういうのも議会の中で町長さんなり教育長さんに自分の意見を述べて、そして答弁をもらう。そして、どうしても子供さんですから、なれていない面もあるので、町長さんがこれはこうやってやるのだよ、こうだよと言えば、ほとんど途中であれ納得したような態度が多少見れたので、今度やるときは、町長、もうちょっとわかりやすくというか、何か町長の答弁を聞いていて首をかしげたりした面が多分にありましたので、こういうことはこれからもずっと続けていくのでしょうか。

○教育長（成田昭彦君） これは昨年度から実施しておりますけれども、これも総合学習の一環としてこれからも続けていきたいと思っております。ある意味、議会よりも子ども議会のほうが何が出てくるか。今はインターネットで調べて勉強しているものですから、むしろそういう面では議会より手ごわいのかなというところもありますので、ひとつこれからも続けていきたいと思っております。

○9番（工藤澄男君） 教育長の言うとおりで。聞いていたら本当にすごいです。ほとんど災害のこと、雪から雨から地震から何でも全部調べて、そして町長にこういう場合はどうするの、こういう場合はどうするのという質問を上げている。本当に議会かもすごいかもしれません。ですから、せっかくこういういい計画があるのですから、これからも続けていただいて、そして子供の意見も我々も勉強しながら頑張っていきたいと思えます。

終わります。

○議長（逢見輝統君） 以上をもちまして総括質問を終わります。

#### ◎散会の宣告

○議長（逢見輝統君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

なお、3月13日の会議は午前10時より開会することとします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 3時11分



上記会議の経過は、書記  
いことを証するためにここに署名する。

の記載したものであるが、その内容の相違な

議 長

署 名 議 員

署 名 議 員